

芦屋町高齢者福祉に関する
アンケート調査結果報告書

令和5年6月
福岡県芦屋町

目 次

I 調査概要

1. 調査目的3
2. 調査概要3
 - (1) 調査対象者3
 - (2) 調査方法3
 - (3) 調査時期3
3. 回収状況3
4. 報告書利用上の注意3

II 調査結果

1. 回答者の属性7
2. 日常生活の様子について9
3. 健康・介護予防について12
4. 社会参加・生きがいについて18
5. 就労について27
6. 認知症について31
7. 成年後見制度の利用促進について34
8. 安全・安心な暮らしについて36
9. 介護について40
10. コロナ禍における暮らしについて46
11. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について50

III 調査結果から見る現状と課題

1. 回答者の属性55
2. 日常生活の様子について55
3. 健康・介護予防について55
4. 社会参加・生きがいについて56
5. 就労について56
6. 認知症について57
7. 成年後見制度の利用促進について57
8. 安全・安心な暮らしについて57
9. 介護について58
10. コロナ禍における暮らしについて58
11. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について58

I 調查概要

1. 調査目的

本調査は、「第9期芦屋町高齢者福祉計画」を策定するにあたり、健康や福祉に関する高齢者の現状や意識などを把握し、今後の高齢者福祉施策を展開するための基礎資料とするものです。

2. 調査概要

- (1) 調査対象者 芦屋町にお住いの65歳以上の方の中から1,500人を無作為抽出
(※住民基本台帳令和5年1月1日現在)
- (2) 調査方法 郵送による配布、回収調査
- (3) 調査期間 令和5年2月10日～3月10日

3. 回収状況

調査対象者数	回収数	回収率
1,500	846	56.4%

4. 報告書利用上の注意

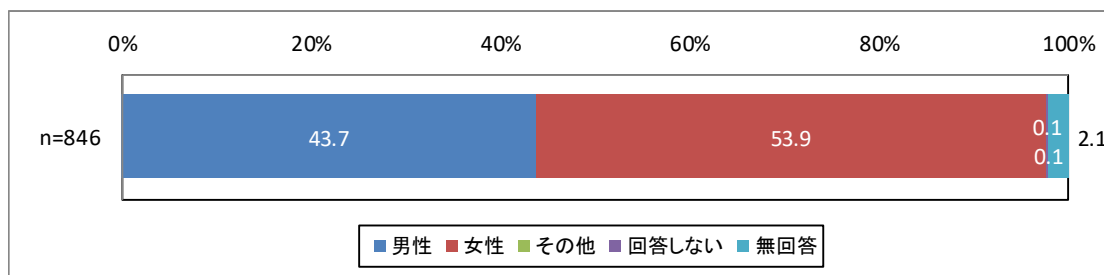
- 端数処理の関係上、構成比(%)の計が100%とならないことがあります。
- 図表の構成比(%)は小数第2位以下を四捨五入したものです。
- 複数回答の設問(設問末尾に「※複」と記載)は、すべての構成比(%)を合計すると100%を超える場合があります。
- 図中の”n”は、各設問の対象者数を表しています。
- 表の上段は構成比、下段は回答数を表しています。

II 調查結果

1. 回答者の属性

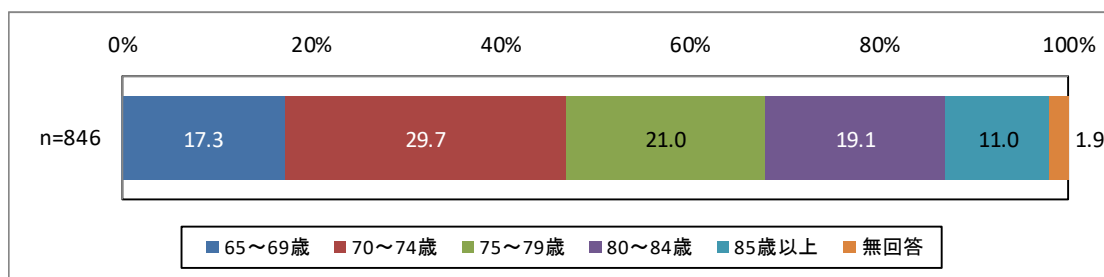
(1) 性別

「女性」が53.9%で最も多く、次いで「男性」43.7%、「その他」「回答しない」0.1%の順となっています。



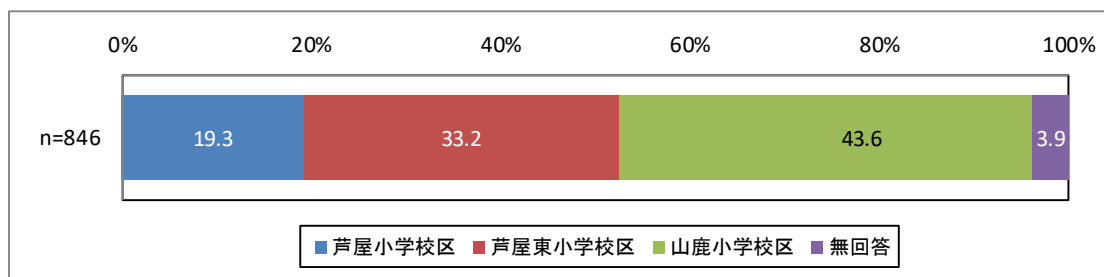
(2) 年齢

「70～74歳」が29.7%で最も多く、次いで「75～79歳」21.0%、「80～84歳」19.1%の順となっています。



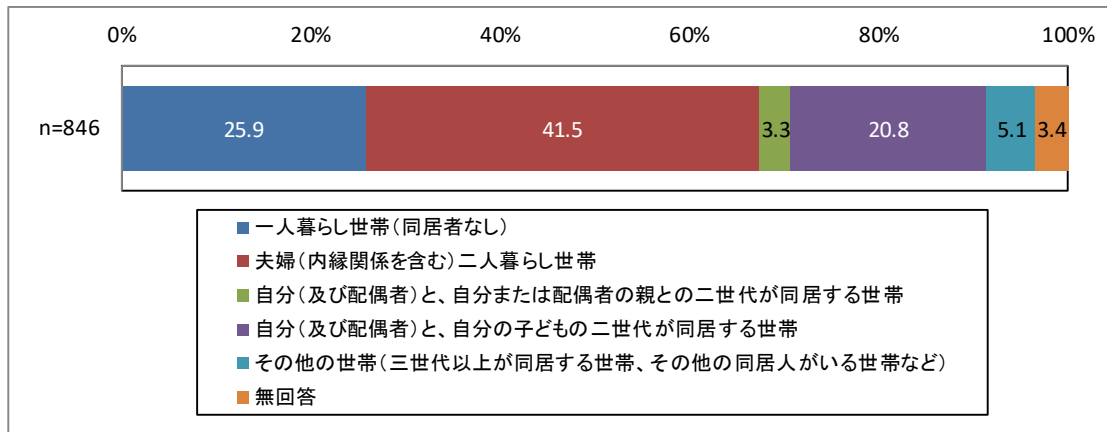
(3) 居住校区

「山鹿小学校区」が43.6%で最も多く、次いで「芦屋東小学校区」33.2%、「芦屋小学校区」19.3%の順となっています。



(4) 世帯の状況

「夫婦（内縁関係を含む）二人暮らし世帯」が41.5%で最も多く、次いで「一人暮らし世帯（同居者なし）」25.9%、「自分（及び配偶者）と、自分の子どもの二世帯が同居する世帯」20.8%の順となっています。

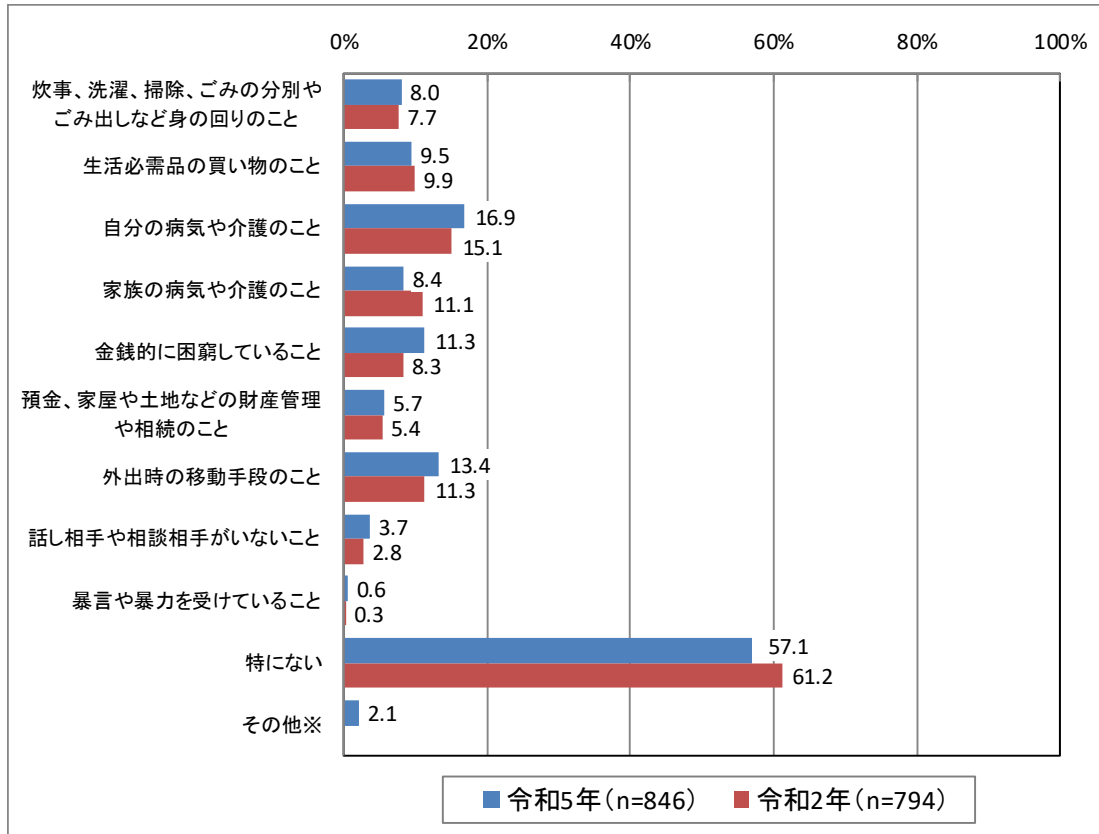


2. 日常生活の様子について

(1) 日常生活での困りごと ※複

「特にない」が57.1%で最も多く、次いで「自分の病気や介護のこと」16.9%、「外出時の移動手段のこと」13.4%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「金銭的に困窮していること」などが増加し、「家族の病気や介護のこと」「特にない」などが減少しています。



「※」の項目は令和2年調査にはない

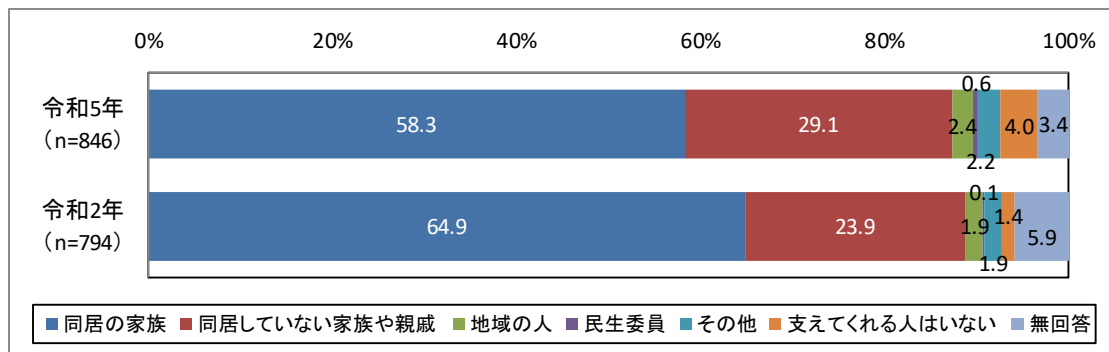
日常生活での困りごとを年齢別でみると「炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと」「生活必需品の買い物のこと」「外出時の移動手段のこと」などで年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと	生活必需品の買い物のこと	自分の病気や介護のこと	家族の病気や介護のこと	金銭的に困窮していること	預金、家屋や土地などの財産管理や相続のこと	外出時の移動手段のこと	話し相手や相談相手がいないこと	暴言や暴力を受けていること	特にない	その他
			2.7	4.1	12.3	8.9	11.6	6.8	4.8	2.7	0.7	64.4	1.4
年齢	65～69歳	100.0	2.7	4.1	12.3	8.9	11.6	6.8	4.8	2.7	0.7	64.4	1.4
		146	4	6	18	13	17	10	7	4	1	94	2
	70～74歳	100.0	6.4	6.4	15.5	6.8	13.5	5.2	7.2	2.4	0.8	63.3	2.4
		251	16	16	39	17	34	13	18	6	2	159	6
	75～79歳	100.0	7.3	9.0	13.5	6.7	11.8	4.5	14.0	3.9	0.0	60.7	2.2
		178	13	16	24	12	21	8	25	7	0	108	4
	80～84歳	100.0	12.3	14.8	22.8	13.0	8.6	6.2	19.8	4.3	1.2	51.2	0.6
	162	20	24	37	21	14	10	32	7	2	83	1	
85歳以上	100.0	16.1	19.4	25.8	7.5	9.7	7.5	32.3	6.5	0.0	41.9	5.4	
	93	15	18	24	7	9	7	30	6	0	39	5	
無回答	100.0	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	
	16	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	

(2) 日常生活で困ったときに支えてくれる人

「同居の家族」が58.3%で最も多く、次いで「同居していない家族や親戚」29.1%、「支えてくれる人はいない」4.0%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「同居していない家族や親戚」などが増加し、「同居の家族」などが減少しています。



日常生活で困ったときに支えてくれる人を性別で見ると、「同居の家族」などで「男性」、「同居していない家族や親戚」などで「女性」が多くなっています。

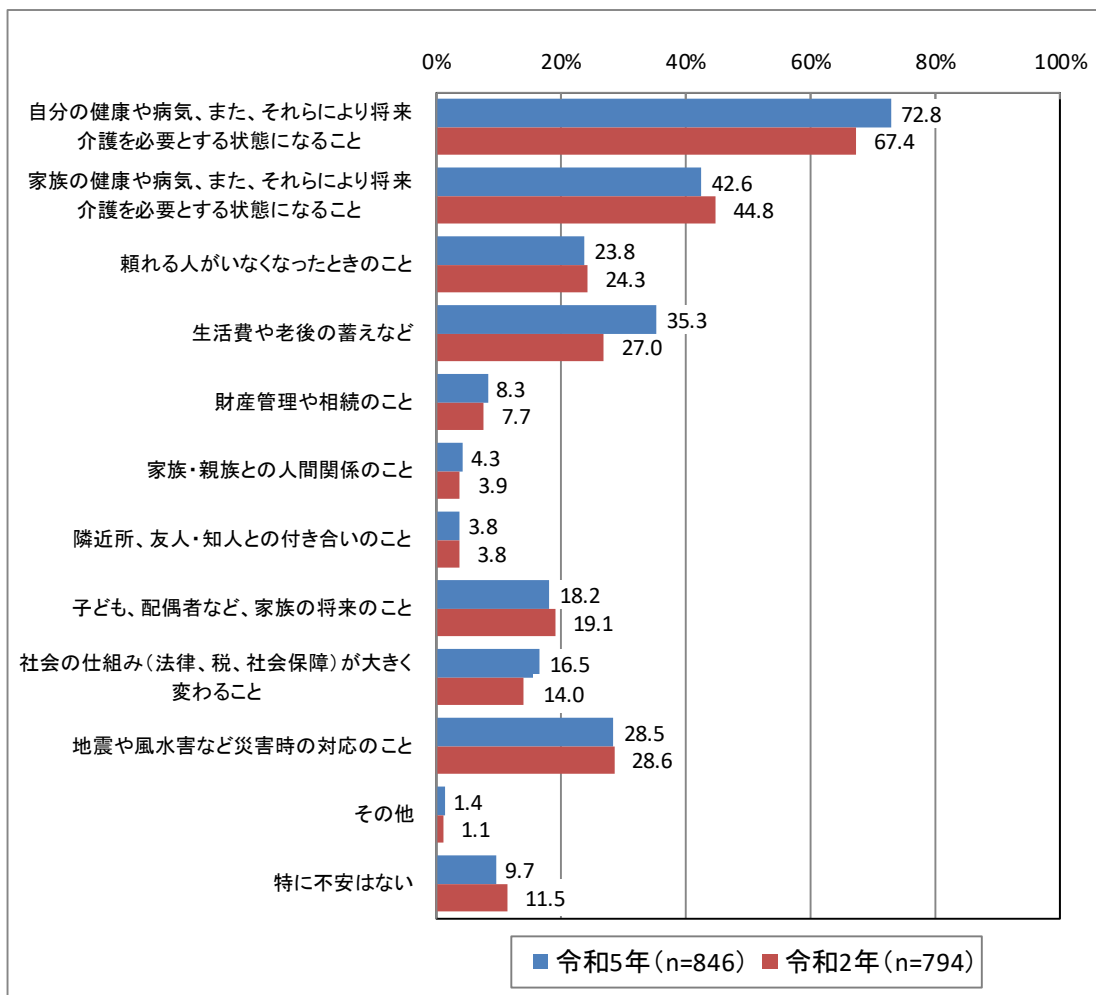
年齢別では、「同居の家族」で「65～74歳」、「同居していない家族や親戚」で「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	支えてくれる人							
		全体	同居の家族	同居していない家族や親戚	地域の人	民生委員	その他	支えてくれる人はいない	無回答
性別	男性	100.0	69.2	20.8	1.6	0.5	1.6	4.9	1.4
		370	256	77	6	2	6	18	5
	女性	100.0	51.1	36.4	2.6	0.7	3.1	3.5	2.6
		456	233	166	12	3	14	16	12
	無回答	100.0	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	61.1
		18	3	3	1	0	0	0	11
年齢	65～69歳	100.0	64.4	21.9	2.1	0.0	2.1	9.6	0.0
		146	94	32	3	0	3	14	0
	70～74歳	100.0	62.9	28.3	1.6	0.4	2.4	2.8	1.6
		251	158	71	4	1	6	7	4
	75～79歳	100.0	57.9	30.9	3.9	0.6	1.7	3.9	1.1
		178	103	55	7	1	3	7	2
	80～84歳	100.0	58.6	29.0	3.1	0.6	1.9	1.2	5.6
		162	95	47	5	1	3	2	9
85歳以上	100.0	45.2	41.9	0.0	2.2	5.4	3.2	2.2	
	93	42	39	0	2	5	3	2	
	無回答	100.0	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	6.3	75.0
		16	1	2	0	0	0	1	12

(3) 将来の生活で不安に感じること ※複

「自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」が72.8%で最も多く、次いで「家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」42.6%、「生活費や老後の蓄えなど」35.3%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「生活費や老後の蓄えなど」「自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」などが増加し、「家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」などが減少しています。



将来の生活で不安に感じることを性別でみると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が不安に感じる割合が多くなっています。

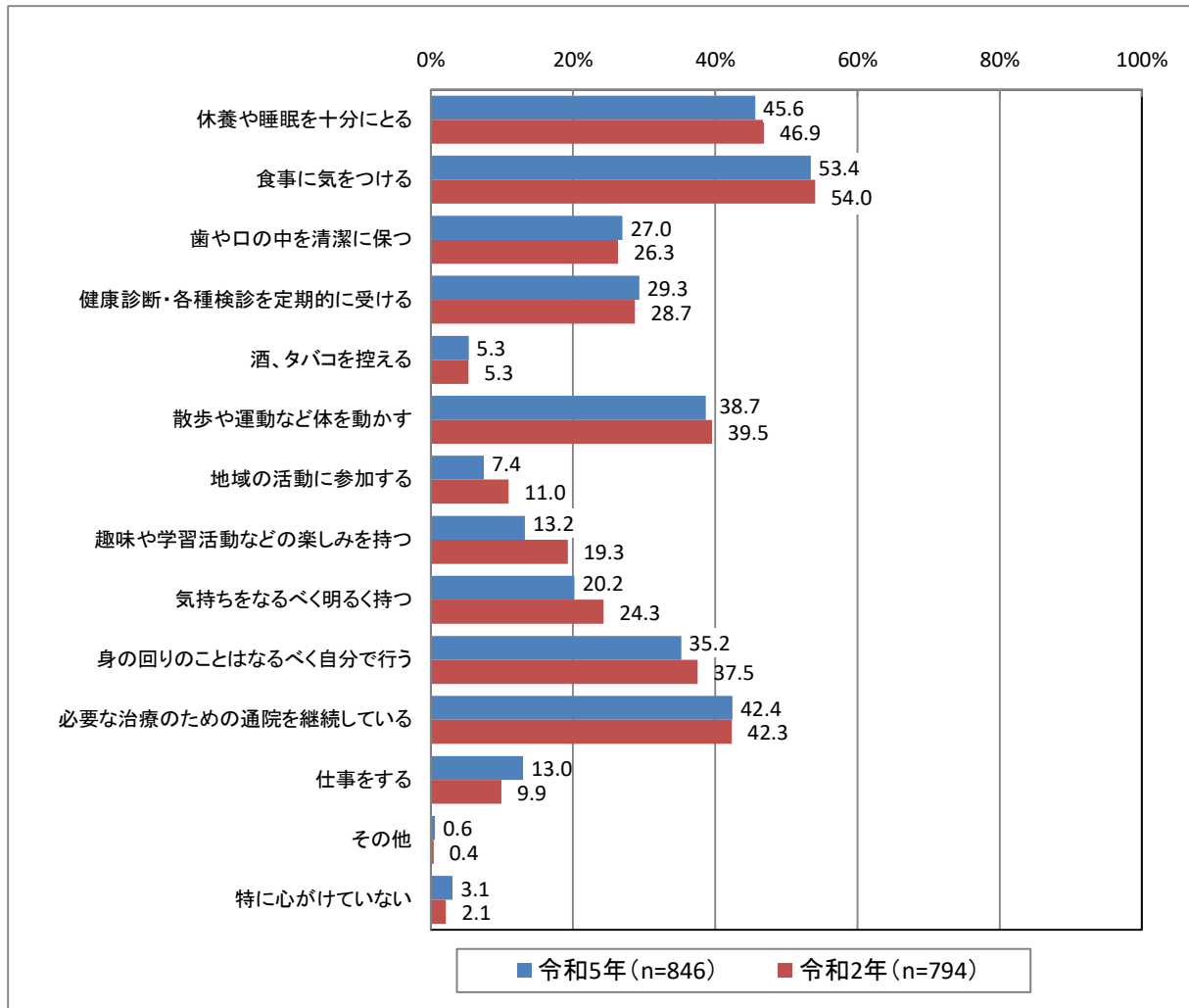
属性	区分	全体	自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること	家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること	頼れる人がいなくなったときのこと	生活費や老後の蓄えなど	財産管理や相続のこと	家族・親族との人間関係のこと	隣近所、友人・知人との付き合いのこと	子ども、配偶者など、家族の将来のこと	社会の仕組み(法律、税、社会保障)が大きく変わること	地震や風水害など災害時の対応のこと	その他	特に不安はない
			76.2	52.7	23.0	39.7	9.7	4.9	4.3	22.4	17.8	24.6	1.9	9.5
性別	男性	100.0	76.2	52.7	23.0	39.7	9.7	4.9	4.3	22.4	17.8	24.6	1.9	9.5
		370	282	195	85	147	36	18	16	83	66	91	7	35
	女性	100.0	71.5	35.1	25.2	32.5	7.5	3.9	3.5	15.4	15.4	31.8	1.1	10.3
		456	326	160	115	148	34	18	16	70	70	145	5	47
無回答	100.0	33.3	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	22.2	0.0	0.0
	18	6	4	0	4	0	0	0	0	1	2	4	0	0

3. 健康・介護予防について

(1) 健康のために心がけていること ※複

「食事に気をつける」が 53.4%で最も多く、次いで「休養や睡眠を十分にとる」45.6%、「必要な治療のための通院を継続している」42.4%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「仕事をする」などが増加し、「趣味や学習活動などの楽しみを持つ」「気持ちをなるべく明るく持つ」が減少しています。



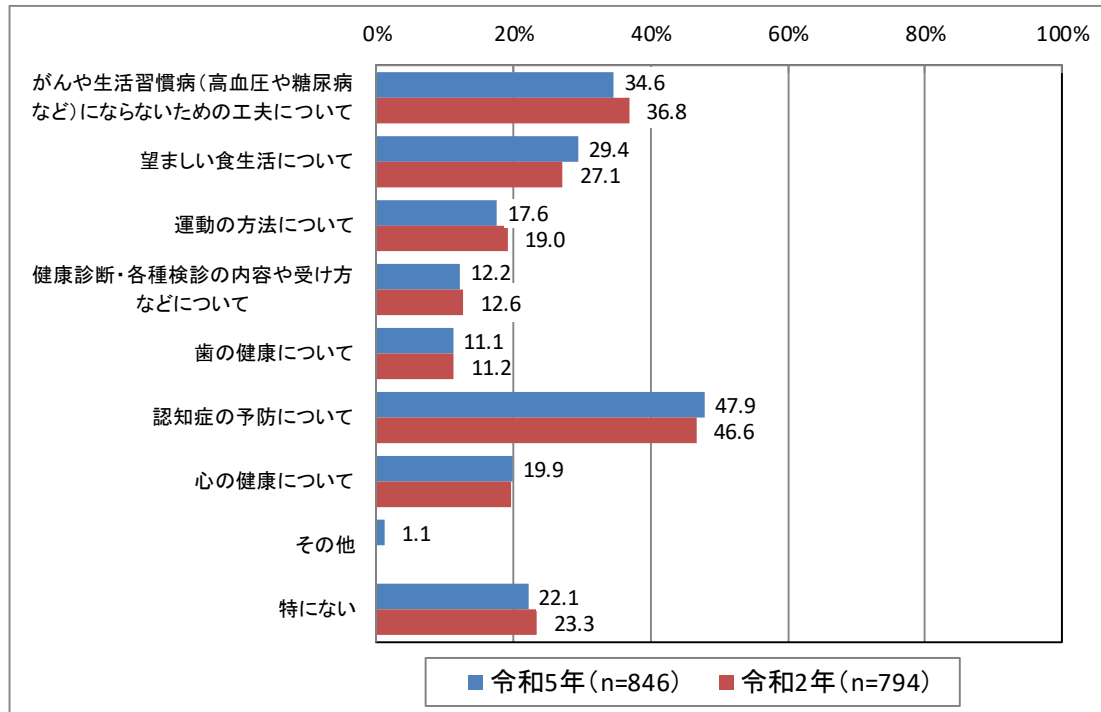
健康のために心がけていることを性別でみると、「散歩や運動など体を動かす」などで「男性」、「身の回りのことはなるべく自分で行う」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	休養や睡眠を十分にとる	食事に気をつける	歯や口の中を清潔に保つ	健康診断・各種検診を定期的に受ける	酒、タバコを控える	散歩や運動など体を動かす	地域の活動に参加する	趣味や学習活動などの楽しみを持つ	気持ちをなるべく明るく持つ	身の回りのことはなるべく自分で行う	必要な治療のための通院を継続している	仕事をする	その他	特に心がけていない
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
性別	男性	100.0	48.1	49.2	22.7	32.7	10.5	47.3	6.5	13.8	17.3	27.8	38.1	16.2	0.8	3.5
		370	178	182	84	121	39	175	24	51	64	103	141	60	3	13
	女性	100.0	45.2	58.1	30.5	27.2	1.3	32.9	8.6	12.7	23.0	41.9	47.1	10.7	0.4	2.9
		456	206	265	139	124	6	150	39	58	105	191	215	49	2	13
無回答	100.0	11.1	22.2	22.2	5.6	0.0	5.6	0.0	11.1	11.1	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	
	18	2	4	4	1	0	1	0	2	2	3	3	0	0	0	

(2) 健康について知りたいこと ※複

「認知症の予防について」が 47.9%で最も多く、次いで「がんや生活習慣病（高血圧や糖尿病など）にならないための工夫について」34.6%、「望ましい食生活について」29.4%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「望ましい食生活について」などが増加し、「がんや生活習慣病（高血圧や糖尿病など）にならないための工夫について」が減少しています。



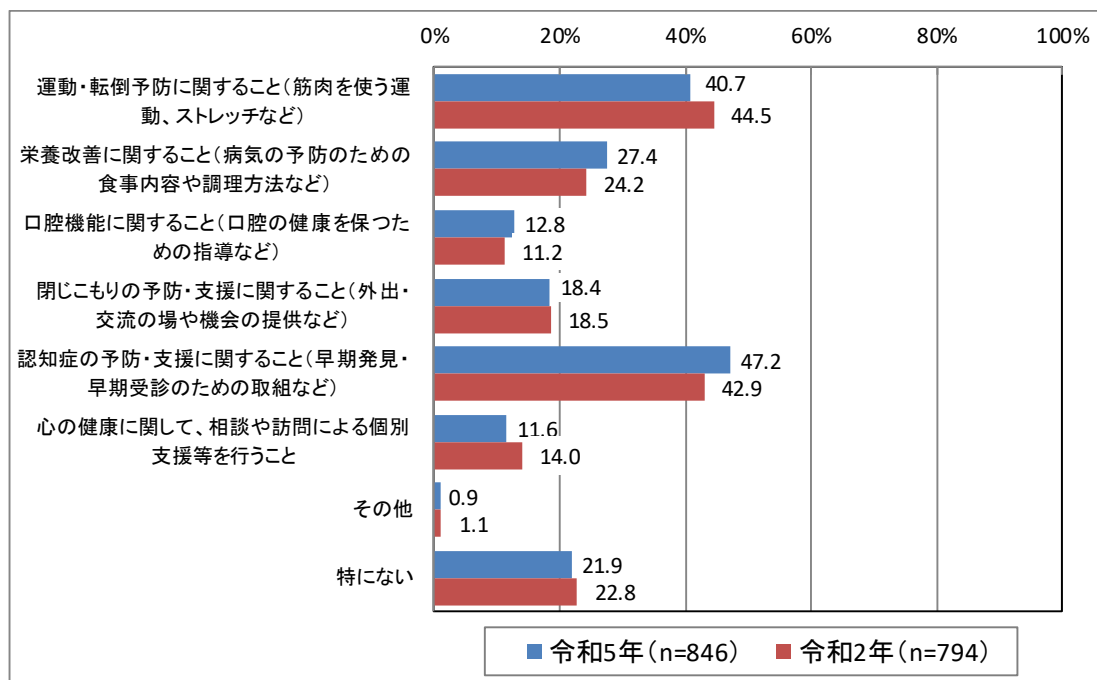
健康について知りたいことを性別でみると、「がんや生活習慣病にならないための工夫について」「健康診断・各種検診の内容や受け方などについて」などで「男性」、「認知症の予防について」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	がんや生活習慣病(高血圧や糖尿病など)にならないための工夫について	望ましい食生活について	運動の方法について	健康診断・各種検診の内容について	歯の健康について	認知症の予防について	心の健康について	その他	特にない
性別	男性	100.0	38.4	30.3	19.2	14.3	11.6	44.9	18.1	1.1	24.6
		370	142	112	71	53	43	166	67	4	91
	女性	100.0	31.8	28.3	16.2	10.3	11.2	50.4	21.5	1.1	20.8
		456	145	129	74	47	51	230	98	5	95
	無回答	100.0	27.8	38.9	22.2	11.1	0.0	44.4	16.7	0.0	5.6
		18	5	7	4	2	0	8	3	0	1

(3) 要介護状態にならないためにやってほしい教室・事業 ※複

「認知症の予防・支援に関すること（早期発見・早期受診のための取組など）」が47.2%で最も多く、次いで「運動・転倒予防に関すること（筋肉を使う運動、ストレッチなど）」40.7%、「栄養改善に関すること（病気の予防のための食事内容や調理方法など）」27.4%の順となっています。

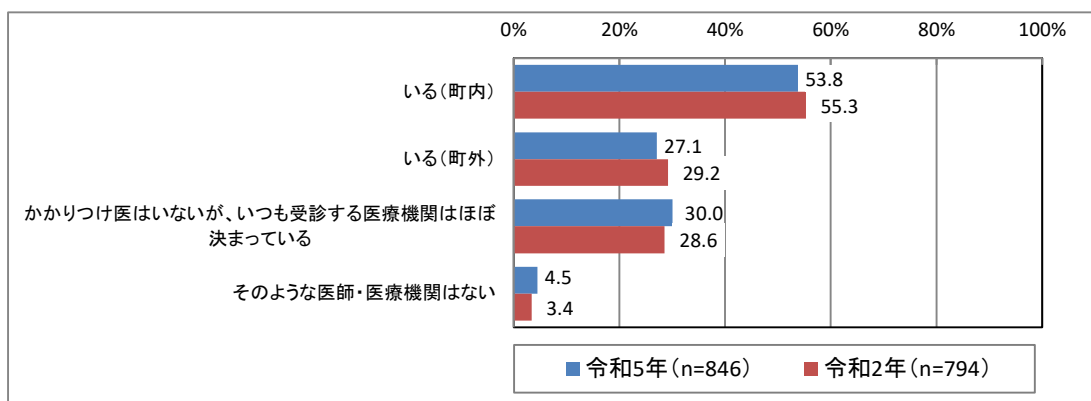
令和2年調査と比較すると「認知症の予防・支援に関すること（早期発見・早期受診のための取組など）」「栄養改善に関すること（病気の予防のための食事内容や調理方法など）」などが増加し、「運動・転倒予防に関すること（筋肉を使う運動、ストレッチなど）」が減少しています。



(4) かかりつけ医の有無（歯科は除く） ※複

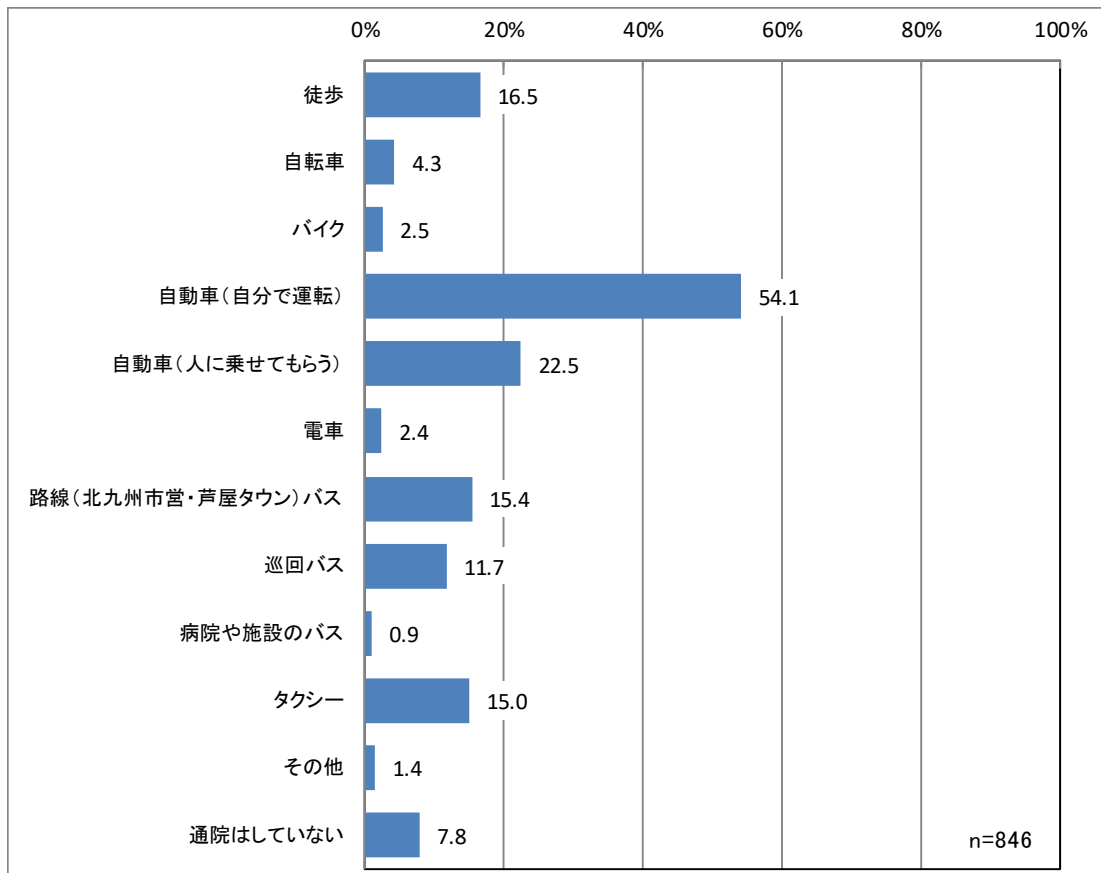
「いる（町内）」が53.8%で最も多く、次いで「かかりつけ医はいないが、いつも受診する医療機関はほぼ決まっている」30.0%、「いる（町外）」27.1%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「かかりつけ医はいないが、いつも受診する医療機関はほぼ決まっている」「そのような医師・医療機関はない」が増加し、「いる（町外）」「いる（町内）」が減少しています。



(5) 通院する際の移動手段

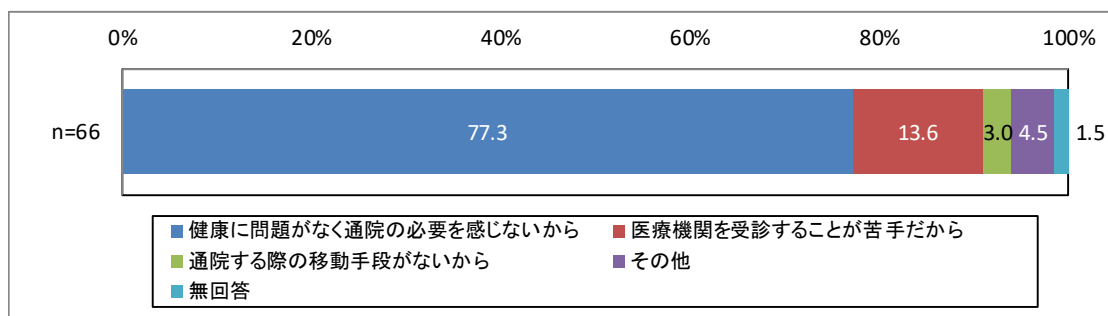
「自動車(自分で運転)」が 54.1%で最も多く、次いで「自動車(人に乗せてもらう)」22.5%、「徒歩」16.5%の順となっています。



(6) 通院していない理由

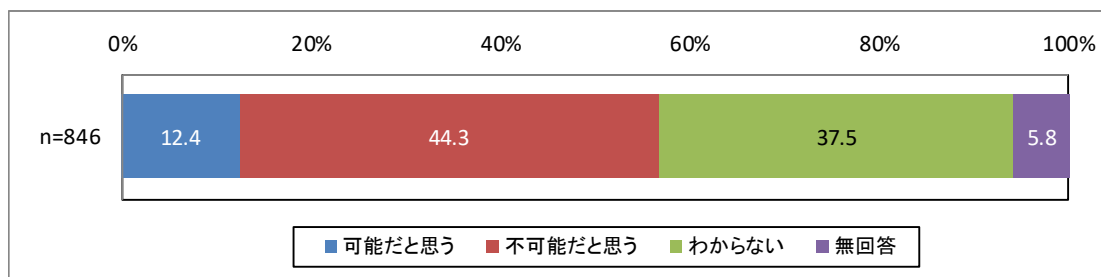
「通院はしていない」と回答した方

「健康に問題がなく通院の必要を感じないから」が 77.3%で最も多く、次いで「医療機関を受診することが苦手だから」13.6%、「その他」4.5%の順となっています。



(7) 最後まで自宅で療養する可能性

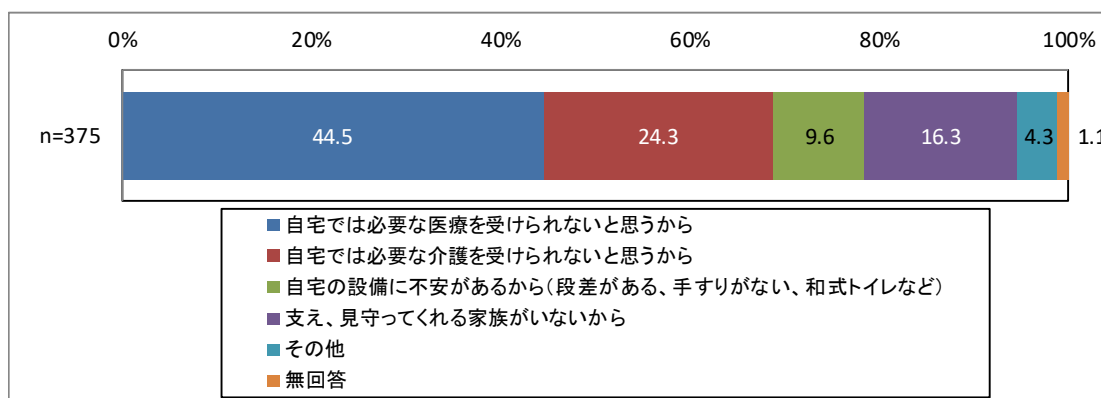
「不可能だと思う」が 44.3%で最も多く、次いで「わからない」37.5%、「可能だと思う」12.4%の順となっています。



(8) 不可能だと思う理由

「不可能だと思う」と回答した方

「自宅では必要な医療を受けられないと思うから」が 44.5%で最も多く、次いで「自宅では必要な介護を受けられないと思うから」24.3%、「支え、見守ってくれる家族がいないから」16.3%の順となっています。



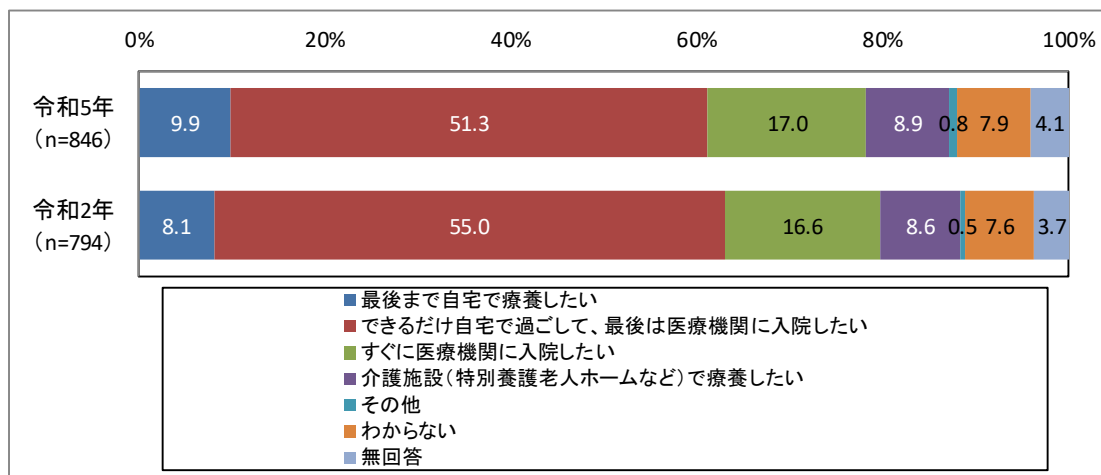
不可能だと思う理由を性別でみると、「自宅では必要な医療を受けられないと思うから」などで「男性」、「支え、見守ってくれる家族がいないから」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	自宅では必要な医療を受けられないと思うから	自宅では必要な介護を受けられないと思うから	自宅の設備に不安がある(段差がある、手すりがない、和式トイレなど)	支え、見守ってくれる家族がいないから	その他	無回答
			割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
性別	男性	100.0	48.7	24.7	11.0	11.7	3.9	0.0
		154	75	38	17	18	6	0
	女性	100.0	41.1	24.4	8.6	19.6	4.8	1.4
		209	86	51	18	41	10	3
	無回答	100.0	40.0	20.0	10.0	20.0	0.0	10.0
		10	4	2	1	2	0	1

(9) 治療困難と診断された場合に希望する療養場所

「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」が 51.3%で最も多く、次いで「すぐに医療機関に入院したい」17.0%、「最後まで自宅で療養したい」9.9%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」を除いたすべての項目で増加しています。



治療困難と診断された場合に希望する療養場所を年齢別で見ると、「すぐに医療機関に入院したい」で「75～79歳」、「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」で「65～69歳」が多くなっています。

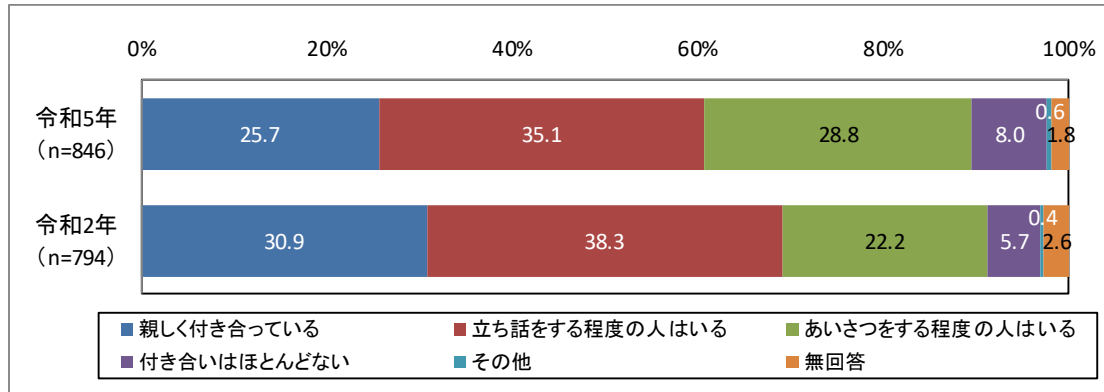
属性	区分	全体	最後まで自宅で療養したい	できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい	すぐに医療機関に入院したい	介護施設(特別養護老人ホームなど)で療養したい	その他	わからない	無回答
年齢	65～69歳	100.0	11.0	56.2	14.4	4.8	1.4	8.9	3.4
		146	16	82	21	7	2	13	5
	70～74歳	100.0	10.8	52.6	14.7	8.4	0.8	8.8	4.0
		251	27	132	37	21	2	22	10
	75～79歳	100.0	11.2	48.9	20.2	9.6	0.0	7.9	2.2
		178	20	87	36	17	0	14	4
	80～84歳	100.0	7.4	49.4	18.5	11.7	0.6	7.4	4.9
	162	12	80	30	19	1	12	8	
85歳以上	100.0	7.5	48.4	18.3	10.8	2.2	6.5	6.5	
	93	7	45	17	10	2	6	6	
無回答	100.0	12.5	50.0	18.8	6.3	0.0	0.0	12.5	
	16	2	8	3	1	0	0	2	

4. 社会参加・生きがいについて

(1) 近所付き合いの程度

「立ち話をする程度の人はいる」が 35.1%で最も多く、次いで「あいさつをする程度の人はいる」28.8%、「親しく付き合っている」25.7%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「あいさつをする程度の人はいる」などが増加し、「親しく付き合っている」などが減少しています。



近所付き合いの程度を性別で見ると、「あいさつをする程度の人はいる」で「男性」、「親しく付き合っている」で「女性」が多くなっています。

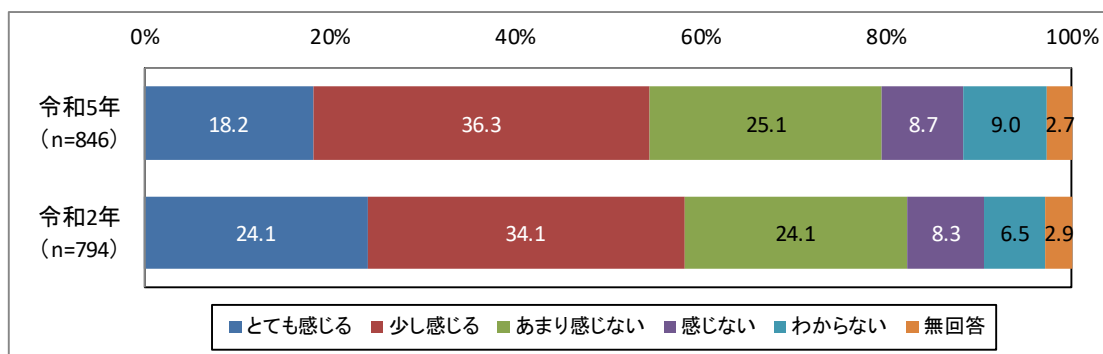
年齢別では、「親しく付き合っている」で「80歳以上」、「付き合いはほとんどない」で「65～69歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	近所付き合いの程度					
			親しく付き合っている	立ち話をする程度の人はいる	あいさつをする程度の人はいる	付き合いはほとんどない	その他	無回答
性別	男性	100.0	20.0	31.9	35.1	10.5	0.5	1.9
		370	74	118	130	39	2	7
	女性	100.0	30.5	36.8	24.1	6.1	0.7	1.8
		456	139	168	110	28	3	8
無回答	100.0	16.7	55.6	22.2	5.6	0.0	0.0	
		18	3	10	4	1	0	0
年齢	65～69歳	100.0	15.1	28.8	39.7	15.8	0.0	0.7
		146	22	42	58	23	0	1
	70～74歳	100.0	23.1	34.3	32.7	8.8	0.0	1.2
		251	58	86	82	22	0	3
	75～79歳	100.0	29.2	39.3	25.8	2.8	0.6	2.2
		178	52	70	46	5	1	4
	80～84歳	100.0	32.7	35.8	22.2	6.8	0.6	1.9
		162	53	58	36	11	1	3
85歳以上	100.0	32.3	31.2	22.6	6.5	3.2	4.3	
	93	30	29	21	6	3	4	
無回答	100.0	12.5	75.0	6.3	6.3	0.0	0.0	
	16	2	12	1	1	0	0	

(2) 居住地域内のつながり

「少し感じる」が 36.3%で最も多く、次いで「あまり感じない」25.1%、「とても感じる」18.2%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「少し感じる」「わからない」などが増加し、「とても感じる」が減少しています。



居住地域内のつながりを性別で見ると、「あまり感じない」で「男性」、「とても感じる」で「女性」が多くなっています。

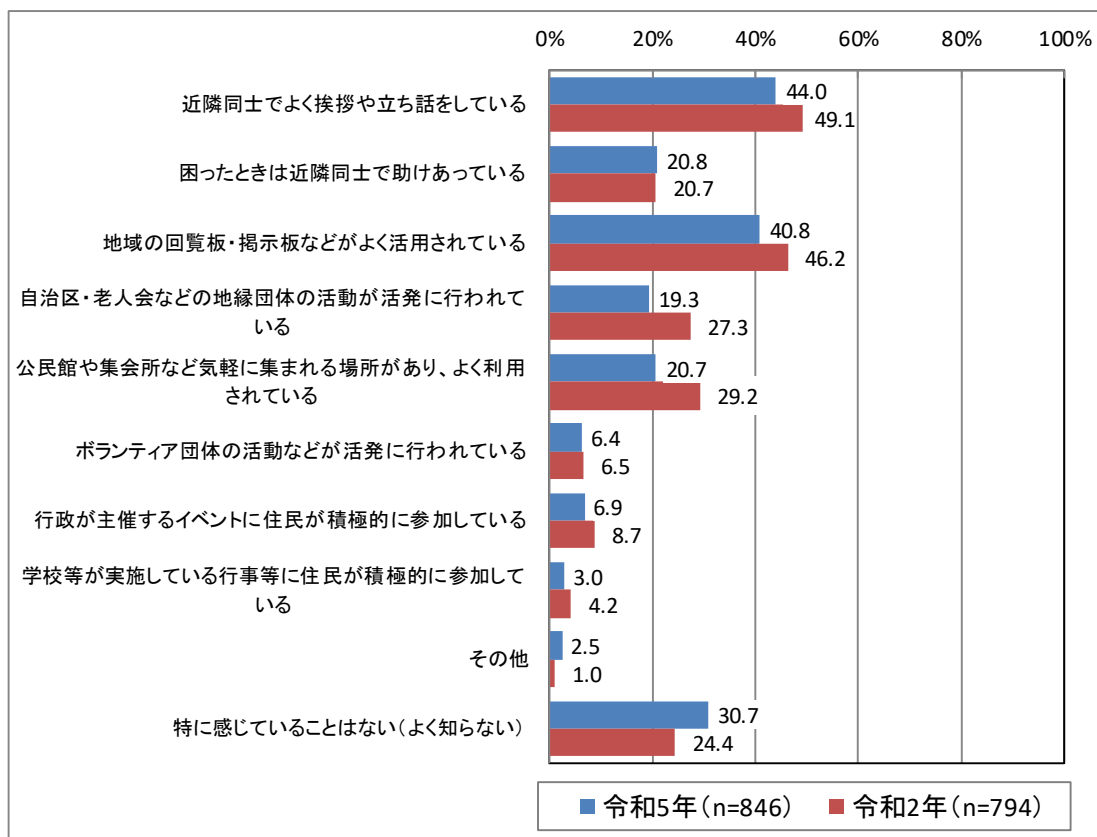
年齢別では、「とても感じる」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	感じる程度					
			とても感じる	少し感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
性別	男性	100.0	14.3	35.9	29.7	8.9	8.9	2.2
		370	53	133	110	33	33	8
	女性	100.0	21.3	36.0	21.3	8.8	9.4	3.3
		456	97	164	97	40	43	15
	無回答	100.0	22.2	55.6	16.7	5.6	0.0	0.0
		18	4	10	3	1	0	0
年齢	65～69歳	100.0	9.6	30.1	32.9	17.8	8.9	0.7
		146	14	44	48	26	13	1
	70～74歳	100.0	16.7	39.8	22.7	8.8	10.8	1.2
		251	42	100	57	22	27	3
	75～79歳	100.0	19.1	37.1	28.1	3.9	8.4	3.4
		178	34	66	50	7	15	6
	80～84歳	100.0	21.0	37.0	23.5	7.4	8.0	3.1
	162	34	60	38	12	13	5	
85歳以上	100.0	29.0	30.1	17.2	6.5	8.6	8.6	
	93	27	28	16	6	8	8	
	無回答	100.0	18.8	56.3	18.8	6.3	0.0	0.0
		16	3	9	3	1	0	0

(3) 居住地域で感じていること ※複

「近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている」が44.0%で最も多く、次いで「地域の回覧板・掲示板などがよく活用されている」40.8%、「特に感じていることはない（よく知らない）」30.7%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「特に感じていることはない（よく知らない）」などが増加し、「公民館や集会所など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている」「自治会・老人会などの地縁団体の活動が活発に行われている」などが減少しています。



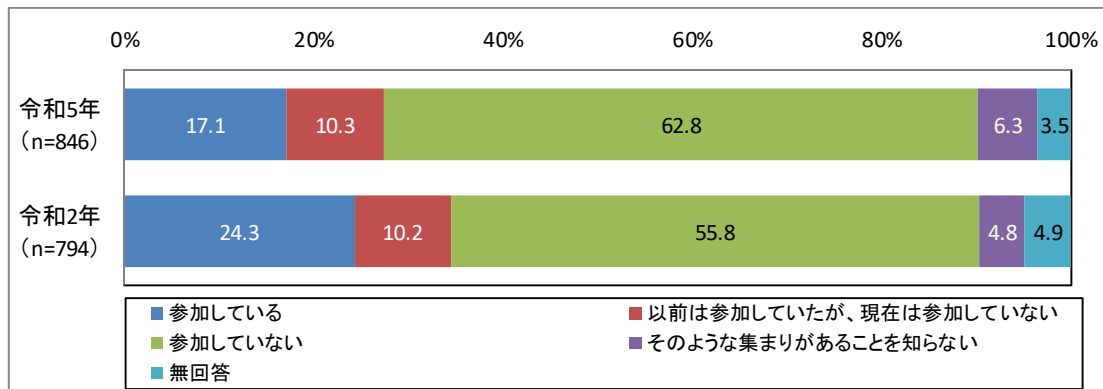
居住地域で感じていることを性別でみると、「特に感じていることはない（よく知らない）」などで「男性」、「近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている	困ったときは近隣同士で助けあっている	地域の回覧板・掲示板などがよく活用されている	自治会・老人会などの地縁団体の活動が活発に行われている	公民館や集会所など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている	ボランティア団体の活動などが活発に行われている	行政が主催するイベントに住民が積極的に参加している	学校等が実施している行事等に住民が積極的に参加している	その他	特に感じていることはない(よく知らない)
			38.6	18.9	41.1	19.5	19.2	5.7	7.0	3.2	1.9	32.4
性別	男性	100.0	38.6	18.9	41.1	19.5	19.2	5.7	7.0	3.2	1.9	32.4
		370	143	70	152	72	71	21	26	12	7	120
	女性	100.0	47.6	21.9	40.4	18.6	21.5	7.0	6.6	2.9	2.9	30.0
	456	217	100	184	85	98	32	30	13	13	13	137
無回答	100.0	61.1	27.8	50.0	33.3	33.3	5.6	11.1	0.0	5.6	16.7	
	18	11	5	9	6	6	1	2	0	1	3	

(4) 通いの場（地域交流サロン、自治区体操教室、地域の親しい人の集まり、趣味のサークル等）への定期的な参加状況

「参加していない」が62.8%で最も多く、次いで「参加している」17.1%、「以前は参加していたが、現在は参加していない」10.3%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「参加していない」などが増加し、「参加している」が減少しています。



通いの場への定期的な参加状況を性別で見ると、「参加していない」で「男性」、「参加している」で「女性」が多くなっています。

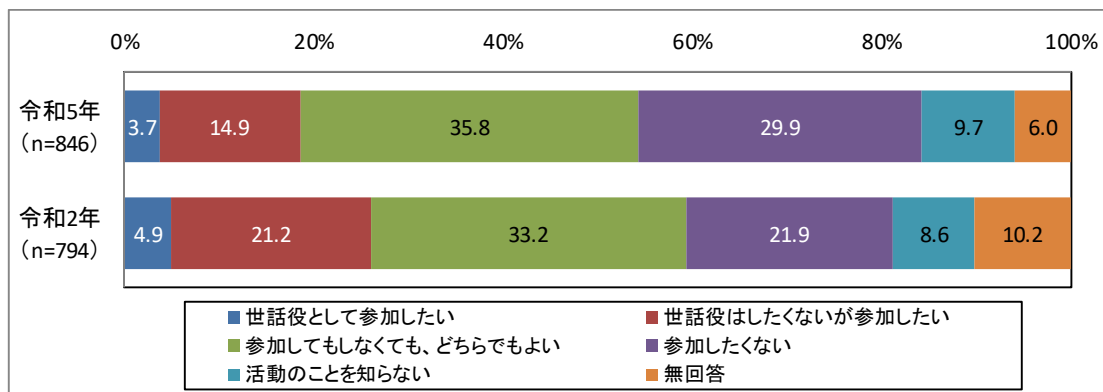
年齢別では、「参加している」で「75～84歳」、「参加していない」で「65～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	参加状況				無回答
			参加している	以前は参加していたが、現在は参加していない	参加していない	そのような集まりがあることを知らない	
性別	男性	100.0	8.9	9.5	71.6	6.5	3.5
		370	33	35	265	24	13
	女性	100.0	23.2	11.0	55.7	6.4	3.7
		456	106	50	254	29	17
	無回答	100.0	27.8	11.1	61.1	0.0	0.0
		18	5	2	11	0	0
年齢	65～69歳	100.0	6.2	0.7	80.8	10.3	2.1
		146	9	1	118	15	3
	70～74歳	100.0	14.3	5.2	72.5	4.4	3.6
		251	36	13	182	11	9
	75～79歳	100.0	21.9	14.0	51.7	7.3	5.1
		178	39	25	92	13	9
	80～84歳	100.0	24.7	20.4	45.1	6.8	3.1
		162	40	33	73	11	5
85歳以上	100.0	17.2	15.1	60.2	3.2	4.3	
	93	16	14	56	3	4	
	無回答	100.0	31.3	6.3	62.5	0.0	0.0
		16	5	1	10	0	0

(5) 体操教室や地域交流サロン活動への参加意向

「参加してもしなくても、どちらでもよい」が 35.8%で最も多く、次いで「参加したくない」29.9%、「世話役はしたくないが参加したい」14.9%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「参加したくない」などが増加し、「世話役はしたくないが参加したい」などが減少しています。



体操教室や地域交流サロン活動への参加意向を年齢別でみると、「世話役はしたくないが参加したい」で「75歳以上」、「活動のことを知らない」で「65～69歳」が多くなっています。

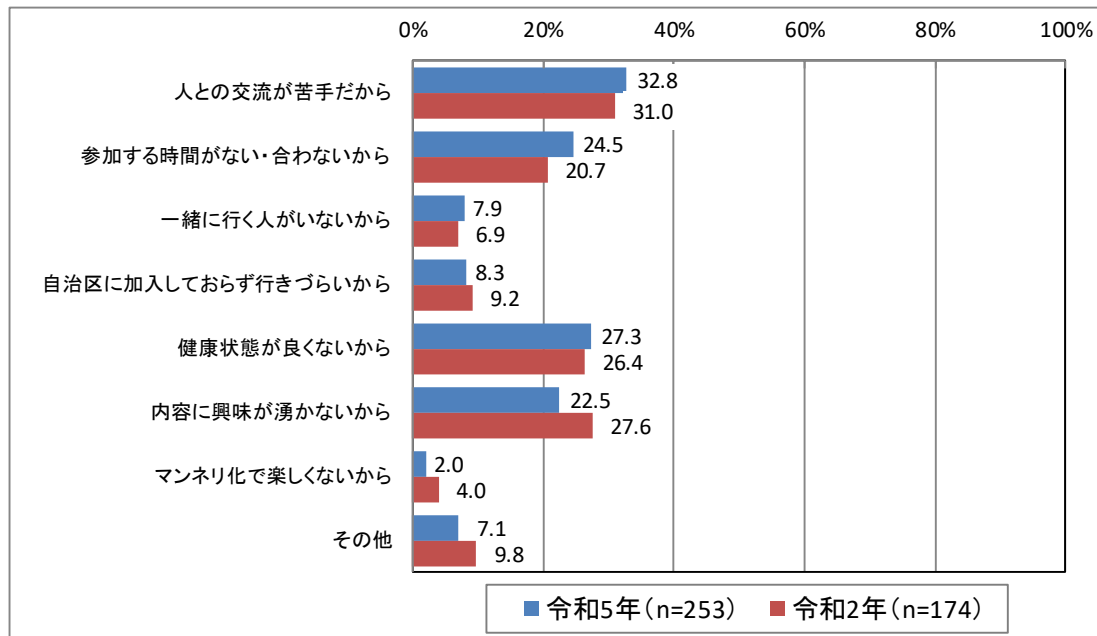
属性	区分	全体	世話役として参加したい	世話役はしたくないが参加したい	参加してもしなくても、どちらでもよい	参加したくない	活動のことを知らない	無回答
年齢	65～69歳	100.0 146	1.4 2	3.4 5	45.9 67	32.9 48	15.1 22	1.4 2
	70～74歳	100.0 251	4.8 12	8.0 20	38.6 97	32.7 82	9.6 24	6.4 16
	75～79歳	100.0 178	2.8 5	21.3 38	30.3 54	28.1 50	9.6 17	7.9 14
	80～84歳	100.0 162	3.7 6	25.3 41	30.2 49	25.9 42	6.8 11	8.0 13
	85歳以上	100.0 93	5.4 5	18.3 17	32.3 30	30.1 28	7.5 7	6.5 6
	無回答	100.0 16	6.3 1	31.3 5	37.5 6	18.8 3	6.3 1	0.0 0

(6) 体操教室や地域交流サロン活動へ参加したくない理由 ※複

「参加したくない」と回答した方

「人との交流が苦手だから」が32.8%で最も多く、次いで「健康状態が良くないから」27.3%、「参加する時間がない・合わないから」24.5%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「参加する時間がない・合わないから」などが増加し、「内容に興味湧かないから」などが減少しています。



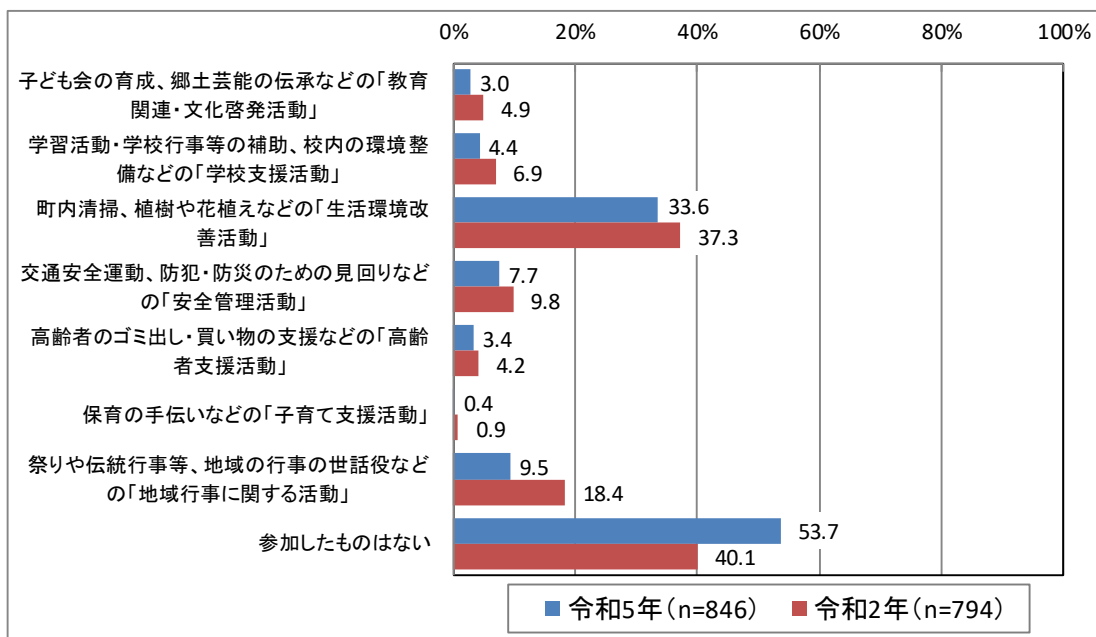
体操教室や地域交流サロン活動へ参加したくない理由を年齢別で見ると、「健康状態が良くないから」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	人との交流が苦手だから	参加する時間がない・合わないから	一緒に行く人がいないから	自治区に加入しておらず行きづらいから	健康状態が良くないから	内容に興味湧かないから	マンネリ化で楽しくないから	その他
年齢	65～69歳	100.0 48	35.4 17	39.6 19	12.5 6	6.3 3	14.6 7	33.3 16	2.1 1	6.3 3
	70～74歳	100.0 82	37.8 31	29.3 24	6.1 5	6.1 5	18.3 15	19.5 16	1.2 1	6.1 5
	75～79歳	100.0 50	36.0 18	22.0 11	10.0 5	12.0 6	20.0 10	22.0 11	2.0 1	8.0 4
	80～84歳	100.0 42	21.4 9	14.3 6	2.4 1	7.1 3	45.2 19	21.4 9	4.8 2	2.4 1
	85歳以上	100.0 28	28.6 8	3.6 1	10.7 3	14.3 4	57.1 16	14.3 4	0.0 0	17.9 5
	無回答	100.0 3	0.0 0	33.3 1	0.0 0	0.0 0	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0

(7) ボランティア活動への参加状況 ※複

「参加したものはなし」が53.7%で最も多く、次いで「町内清掃、植樹や花植えなどの「生活環境改善活動」」33.6%、「祭りや伝統行事等、地域の行事の世話役などの「地域行事に関する活動」」9.5%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「参加したものはなし」を除いたすべての項目で減少しています。



ボランティア活動への参加状況を性別で見ると、「安全管理活動」で「男性」が多くなっています。

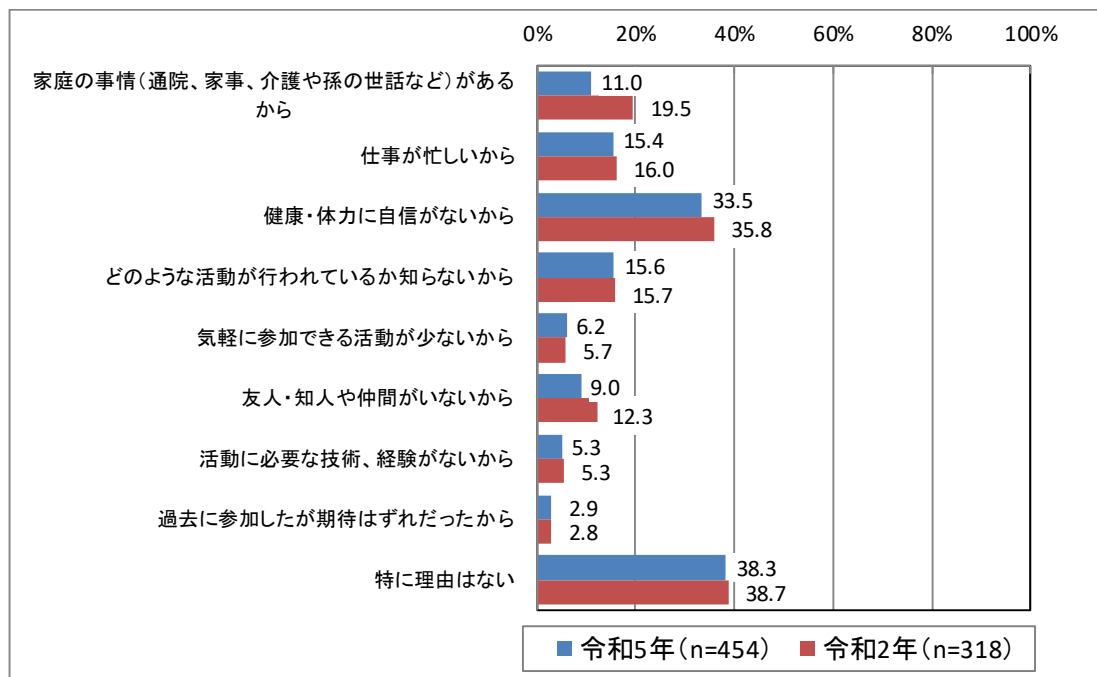
年齢別では「生活環境改善活動」で「75～79歳」、「安全管理活動」で「70～74歳」が最も多くなっています。

属性	区分	全体	活動区分								
			子ども会の育成、郷土芸能文化啓発活動	学習活動・学校行事等の補助	町内清掃、植樹や花植えなどの「生活環境改善活動」	交通安全運動、防犯・防災のための見回りなどの「安全管理活動」	高齢者のゴミ出し・買い物の支援活動	保育の手伝いなどの「子育て支援活動」	祭りや伝統行事等、地域の行事の世話役などの「地域行事に関する活動」	参加したものはなし	
性別	男性	100.0	3.5	6.8	34.1	13.0	4.3	0.5	11.9	53.2	
		370	13	25	126	48	16	2	44	197	
	女性	100.0	2.4	2.4	32.7	3.1	2.9	0.2	7.5	54.6	
		456	11	11	149	14	13	1	34	249	
無回答	100.0	5.6	0.0	38.9	16.7	0.0	0.0	11.1	44.4		
	18	1	0	7	3	0	0	2	8		
年齢	65～69歳	100.0	0.7	4.1	24.7	6.2	1.4	0.0	4.1	69.2	
		146	1	6	36	9	2	0	6	101	
	70～74歳	100.0	3.2	4.8	36.3	10.4	4.4	0.4	12.0	52.6	
		251	8	12	91	26	11	1	30	132	
	75～79歳	100.0	3.4	3.4	42.7	7.3	2.8	0.6	14.0	41.0	
		178	6	6	76	13	5	1	25	73	
	80～84歳	100.0	3.7	6.8	35.8	6.8	5.6	0.0	9.3	48.8	
		162	6	11	58	11	9	0	15	79	
85歳以上	100.0	3.2	1.1	17.2	4.3	2.2	1.1	3.2	65.6		
	93	3	1	16	4	2	1	3	61		
無回答	100.0	6.3	6.3	43.8	12.5	0.0	0.0	6.3	50.0		
	16	1	1	7	2	0	0	1	8		

(8) ボランティア活動へ参加したことがない理由 ※複

「参加したものはなし」と回答した方

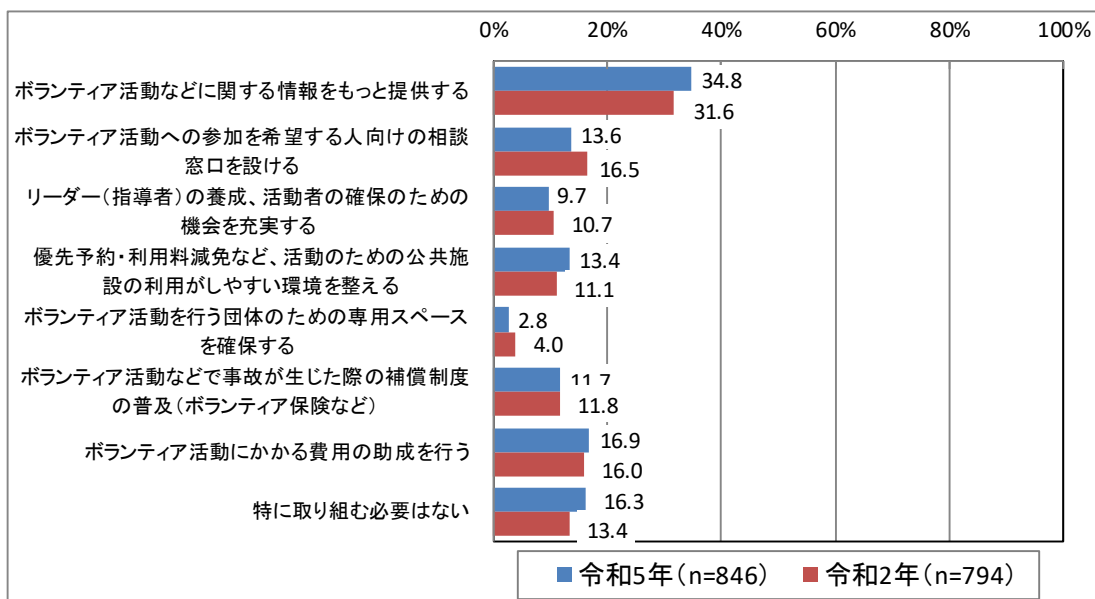
「特に理由はない」が38.3%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないから」33.5%、「どのような活動が行われているか知らないから」15.6%の順となっています。
令和2年調査と比較するとほとんどの項目において減少しています。



(9) 地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な町の取り組み ※複

「ボランティア活動などに関する情報をもっと提供する」が34.8%で最も多く、次いで「ボランティア活動にかかる費用の助成を行う」16.9%、「特に取り組む必要はない」16.3%の順となっています。

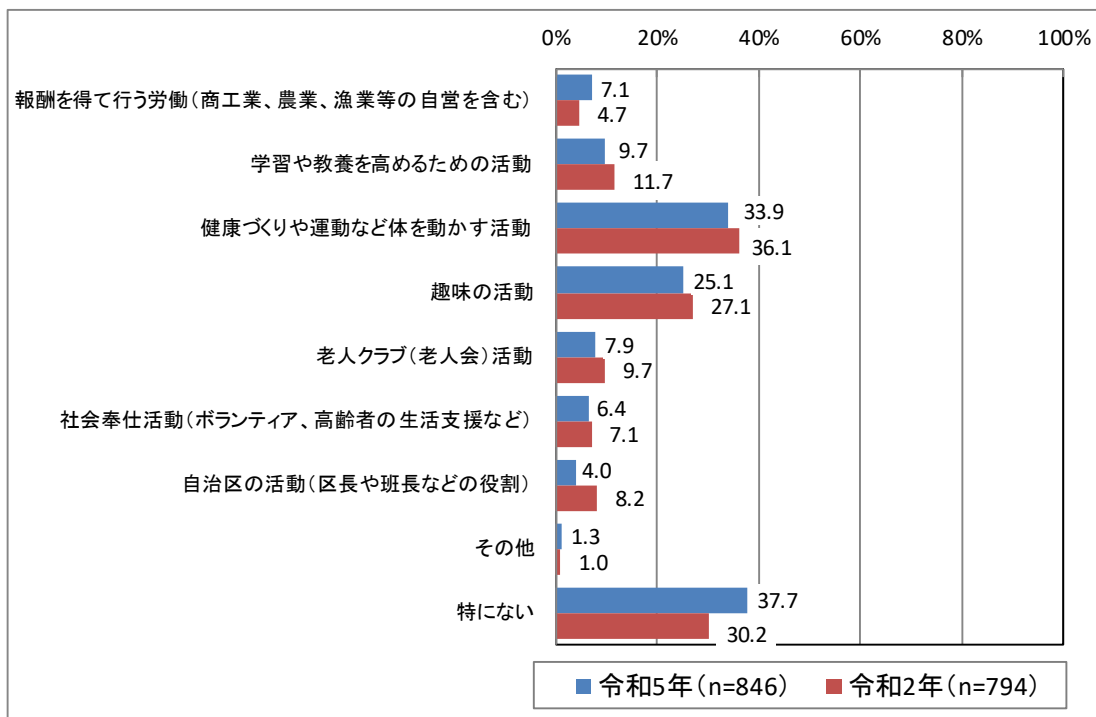
令和2年調査と比較すると「ボランティア活動などに関する情報をもっと提供する」などが増加し、「ボランティア活動への参加を希望する人向けの相談窓口を設ける」などが減少しています。



(10) 今後やってみたいこと ※複

「特にない」が37.7%で最も多く、次いで「健康づくりや運動など体を動かす活動」33.9%、「趣味の活動」25.1%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「報酬を得て行う労働（商工業、農業、漁業等の自営を含む）」「特にない」などが増加し、「自治区の活動（区長や班長などの役割）」などが減少しています。



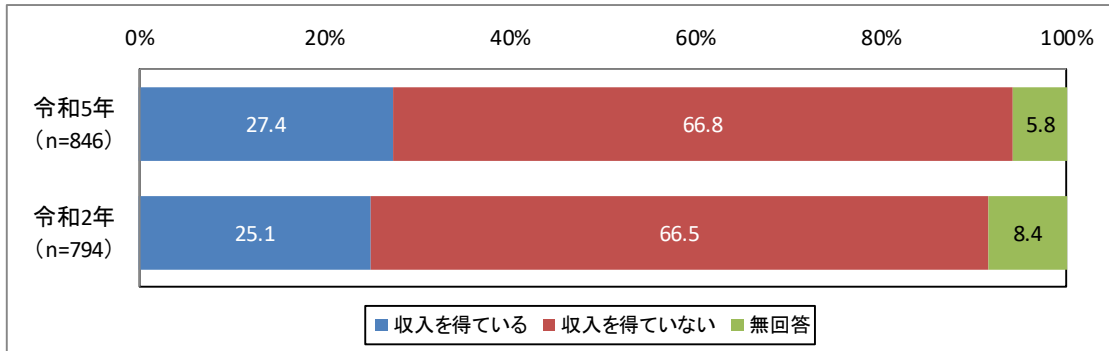
今後やってみたいことを性別でみると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が多くなっています。

属性	区分	全体	業、報酬を得て行う労働等(商工業を含む)	学習や教養を高めるための活動	健康づくりや運動など体を動かす活動	趣味の活動	老人クラブ(老人会)活動	社会奉仕活動(ボランティア、高齢者の生活支援など)	自治区の活動(区長や班長などの役割)	その他	特にない
			性別	男性	100.0	12.7	10.3	39.2	30.0	7.3	7.6
370	47	38			145	111	27	28	21	1	131
女性	100.0	2.9		8.8	28.9	20.6	8.3	5.3	2.4	2.2	41.0
	456	13		40	132	94	38	24	11	10	187
無回答	100.0	0.0	16.7	50.0	33.3	11.1	5.6	11.1	0.0	5.6	
	18	0	3	9	6	2	1	2	0	1	

5. 就労について

(1) 就労状況

「収入を得ている」が27.4%、「収入を得ていない」が66.8%となっています。
令和2年調査と比較すると「収入を得ている」が増加しています。



就労状況を性別で見ると、「収入を得ている」で「男性」が多くなっています。
年齢別では、「収入を得ている」で年齢が低くなるほど多くなっています。

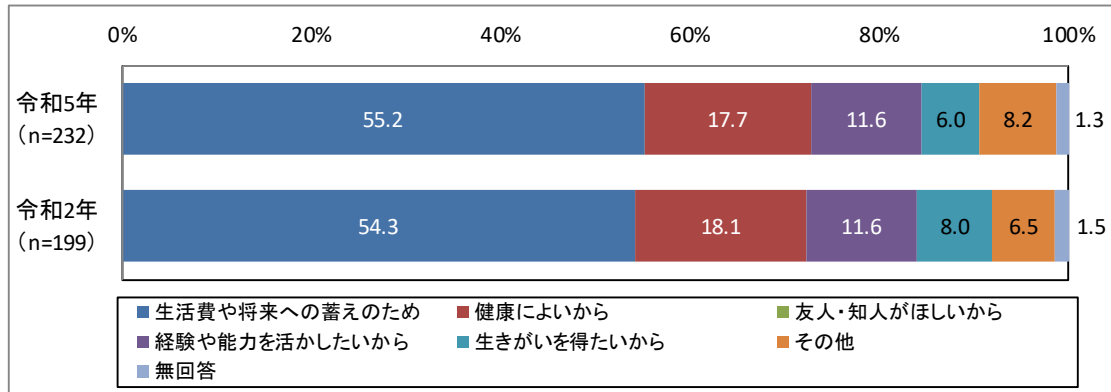
属性	区分	全体	収入を得ている	収入を得ていない	無回答
性別	男性	100.0 370	35.9 133	60.8 225	3.2 12
	女性	100.0 456	20.4 93	72.6 331	7.0 32
	無回答	100.0 18	27.8 5	50.0 9	22.2 4
年齢	65～69歳	100.0 146	47.9 70	50.0 73	2.1 3
	70～74歳	100.0 251	35.1 88	61.0 153	4.0 10
	75～79歳	100.0 178	25.3 45	70.2 125	4.5 8
	80～84歳	100.0 162	12.3 20	81.5 132	6.2 10
	85歳以上	100.0 93	4.3 4	80.6 75	15.1 14
	無回答	100.0 16	31.3 5	43.8 7	25.0 4

(2) 働いている理由

「就労状況」で「収入を得ている」と回答した方

「生活費や将来への蓄えのため」が55.2%で最も多く、次いで「健康によいから」17.7%、「経験や能力を活かしたいから」11.6%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「生活費や将来への蓄えのため」「その他」などが増加し、「生きがいを得たいから」などが減少しています。



年齢別では、「健康によいから」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「経験や能力を活かしたいから」で「75～74歳」が多くなっています。

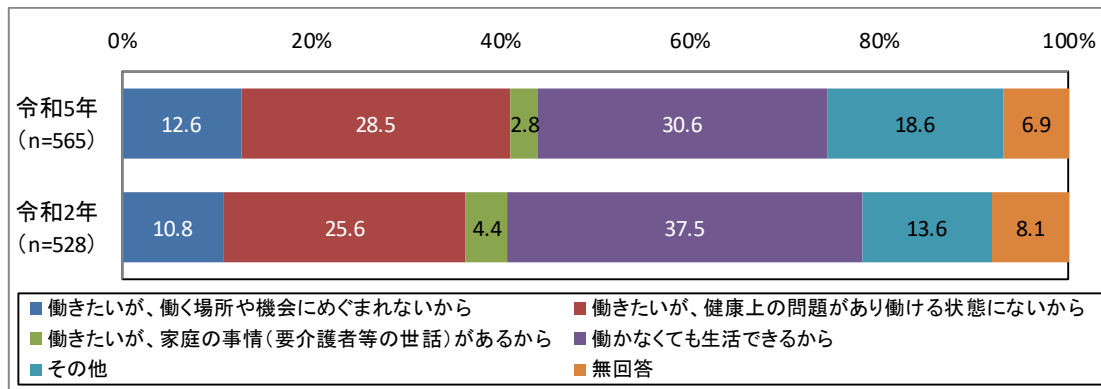
属性	区分	全体	生活費や将来への蓄えのため	健康によいから	友人・知人がほしいから	経験や能力を活かしたいから	生きがいを得たいから	その他	無回答
			めた	から	から	から	から	から	から
年齢	65～69歳	100.0	68.6	10.0	0.0	7.1	1.4	10.0	2.9
		70	48	7	0	5	1	7	2
	70～74歳	100.0	46.6	18.2	0.0	17.0	10.2	8.0	0.0
		88	41	16	0	15	9	7	0
	75～79歳	100.0	60.0	20.0	0.0	11.1	4.4	4.4	0.0
		45	27	9	0	5	2	2	0
	80～84歳	100.0	50.0	25.0	0.0	10.0	10.0	5.0	0.0
	20	10	5	0	2	2	1	0	
85歳以上	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	
	4	0	1	0	0	0	2	1	
無回答	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	5	2	3	0	0	0	0	0	

(3) 働いていない理由

「就労状況」で「収入を得ていない」と回答した方

「働かなくても生活できるから」が 30.6%で最も多く、次いで「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」28.5%、「その他」18.6%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「働かなくても生活できるから」が増加し、「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」「その他」などが減少しています。



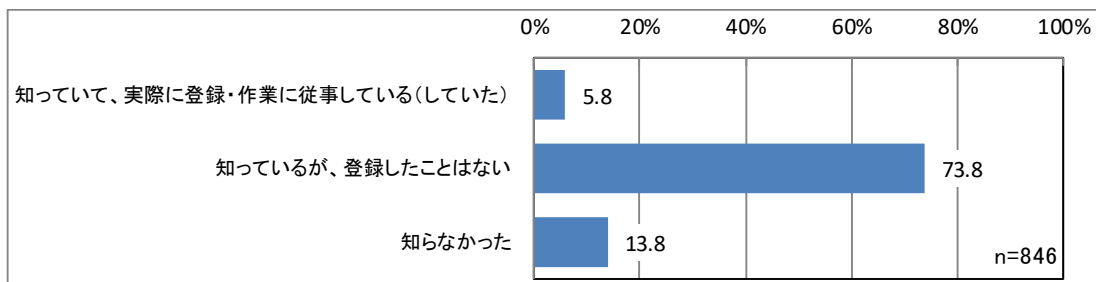
働いていない理由を性別で見ると、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」で「男性」が多くなっています。

年齢別では、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」で「65～79歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから	働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから	(働きたいが、家庭の事情(要介護者等の世話)があるから)	働かなくても生活できるから	その他	無回答
性別	男性	100.0	20.4	30.2	2.2	30.2	14.2	2.7
		225	46	68	5	68	32	6
	女性	100.0	7.6	26.6	3.0	31.1	22.1	9.7
		331	25	88	10	103	73	32
無回答	100.0	0.0	55.6	11.1	22.2	0.0	11.1	
		9	0	5	1	2	0	1
年齢	65～69歳	100.0	20.5	35.6	8.2	21.9	9.6	4.1
		73	15	26	6	16	7	3
	70～74歳	100.0	17.6	30.1	1.3	35.3	13.1	2.6
		153	27	46	2	54	20	4
	75～79歳	100.0	15.2	20.8	4.8	31.2	20.8	7.2
		125	19	26	6	39	26	9
	80～84歳	100.0	6.8	28.8	0.0	29.5	25.8	9.1
132		9	38	0	39	34	12	
85歳以上	100.0	1.3	29.3	1.3	30.7	22.7	14.7	
	75	1	22	1	23	17	11	
無回答	100.0	0.0	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	
	7	0	3	1	2	1	0	

(4) 「高齢者能力活用事業」の認知度 ※複

「知っているが、登録したことはない」が73.8%で最も多く、次いで「知らなかった」13.8%、「知っている、実際に登録・作業に従事している(していた)」5.8%の順となっています。



「高齢者能力活用事業」の認知度を性別で見ると、「知っている、実際に登録・作業に従事している(していた)」で「男性」が多くなっています。

年齢別では、「知らなかった」で「65～69歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	認知度		
			作業に従事している(していた)	知っているが、登録したことはない	知らなかった
性別	男性	100.0 370	9.7 36	73.8 273	13.8 51
	女性	100.0 456	2.9 13	73.2 334	14.3 65
	無回答	100.0 18	0.0 0	83.3 15	5.6 1
年齢	65～69歳	100.0 146	1.4 2	74.0 108	22.6 33
	70～74歳	100.0 251	5.6 14	77.7 195	13.5 34
	75～79歳	100.0 178	8.4 15	76.4 136	10.1 18
	80～84歳	100.0 162	8.0 13	69.1 112	10.5 17
	85歳以上	100.0 93	4.3 4	65.6 61	15.1 14
	無回答	100.0 16	6.3 1	75.0 12	6.3 1

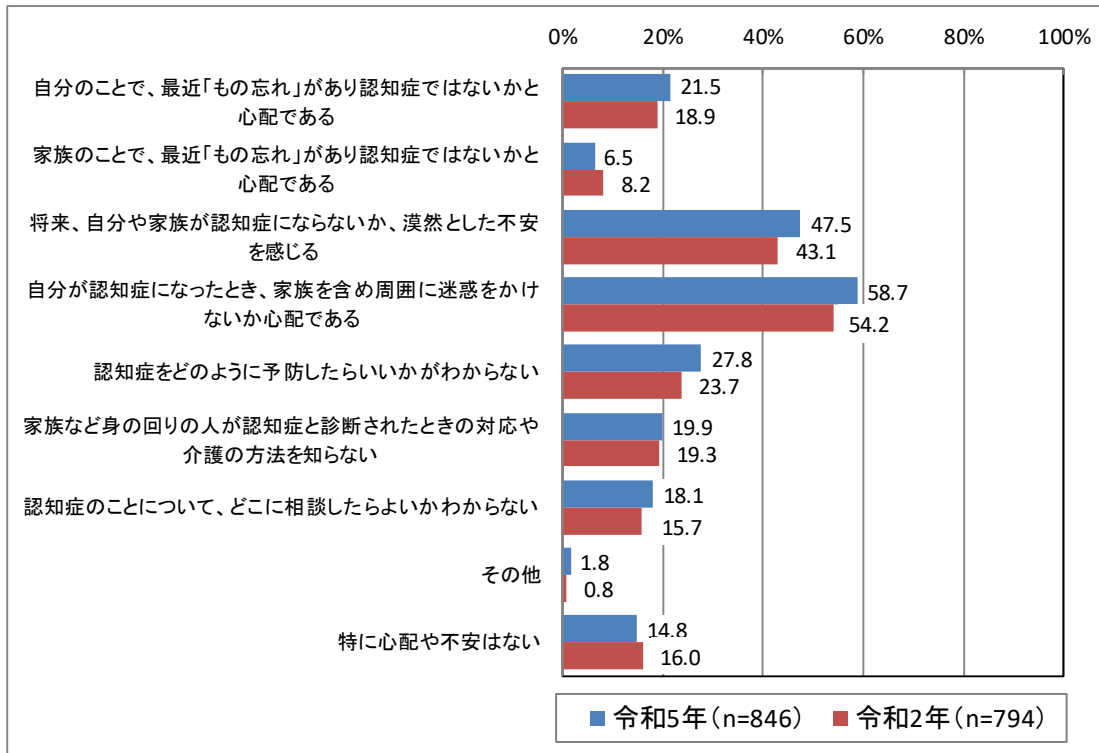
「高齢者能力活用事業」……60歳以上の方の雇用の場を確保するために町が行っている事業

6. 認知症について

(1) 認知症についての不安や心配事

「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑をかけないか心配である」が 58.7% で最も多く、次いで「将来、自分や家族が認知症にならないか、漠然とした不安を感じる」47.5%、「認知症をどのように予防したらいいかわからない」27.8%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑をかけないか心配である」などが増加し、「特に心配や不安はない」などが減少しています。



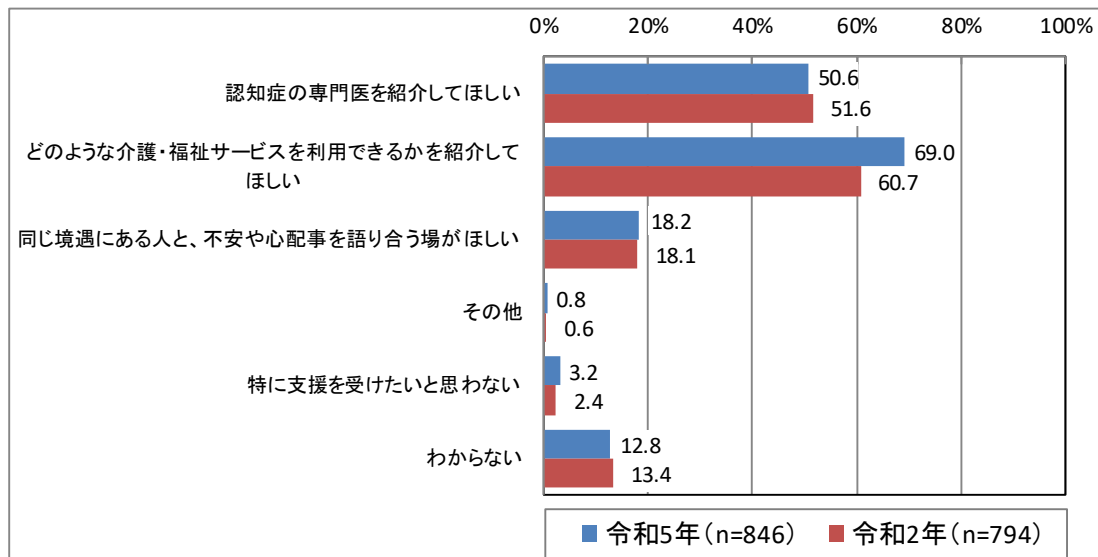
認知症についての不安や心配事を性別で見ると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が多くなっています。

属性	区分	全体	自分のこと	家族のこと	将来、自分	き、自分が	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を	認知症を						
			「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」	「もの忘れ」				
性別	男性	100.0	23.8	9.7	52.7	52.7	32.7	23.2	18.6	1.1	18.4	370	88	36	195	195	121	86	69	4	68
		100.0	19.7	3.9	43.2	63.6	24.3	17.1	18.0	2.4	12.1	456	90	18	197	290	111	78	82	11	55
	女性	100.0	16.7	5.6	55.6	61.1	16.7	22.2	11.1	0.0	11.1	100.0	16.7	5.6	55.6	61.1	16.7	22.2	11.1	0.0	11.1
		18	3	1	10	11	3	4	2	0	2										

(2) 認知症と診断された場合に受けたい支援

「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」が69.0%で最も多く、次いで「認知症の専門医を紹介してほしい」50.6%、「同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい」18.2%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」などが増加し、「認知症の専門医を紹介してほしい」などが減少しています。



認知症と診断された場合に受けたい支援を性別でみると、「特に支援を受けたいと思わない」「わからない」で「男性」、「認知症の専門医を紹介してほしい」「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」「同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい」で「女性」が多くなっています。

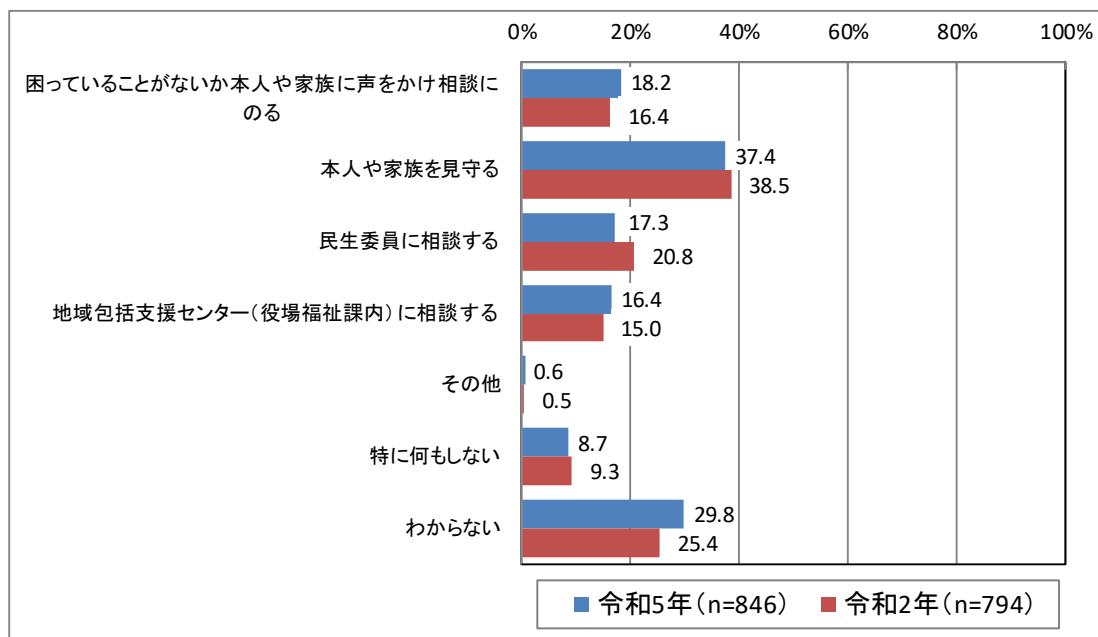
年齢別では、「認知症の専門医を紹介してほしい」で年齢が低くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	認知症の専門医を紹介してほしい	どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい	同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい	その他	特に支援を受けたいと思わない	わからない
			割合	割合	割合	割合	割合	割合
性別	男性	100.0	49.7	68.1	16.2	0.8	4.9	15.4
		370	184	252	60	3	18	57
	女性	100.0	51.8	69.7	19.5	0.9	1.8	10.7
		456	236	318	89	4	8	49
	無回答	100.0	38.9	66.7	22.2	0.0	5.6	11.1
		18	7	12	4	0	1	2
年齢	65～69歳	100.0	59.6	71.9	17.1	1.4	3.4	11.0
		146	87	105	25	2	5	16
	70～74歳	100.0	54.6	74.9	15.5	0.4	2.4	10.0
		251	137	188	39	1	6	25
	75～79歳	100.0	46.1	66.3	19.1	0.0	2.2	15.2
		178	82	118	34	0	4	27
	80～84歳	100.0	45.7	64.8	16.7	2.5	3.1	15.4
	162	74	105	27	4	5	25	
85歳以上	100.0	45.2	61.3	24.7	0.0	6.5	15.1	
	93	42	57	23	0	6	14	
	無回答	100.0	37.5	68.8	37.5	0.0	6.3	6.3
		16	6	11	6	0	1	1

(3) 認知症と思われる人が近くにいた場合の接し方

「本人や家族を見守る」が37.4%で最も多く、次いで「わからない」29.8%、「困っていることがないか本人や家族に声をかけ相談にのる」18.2%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「わからない」「困っていることがないか本人や家族に声をかけ相談にのる」などが増加し、「民生委員に相談する」などが減少しています。



認知症と思われる人が近くにいた場合の接し方を年齢別で見ると、「本人や家族を見守る」で「65～74歳」、「地域包括支援センター（役場福祉課内）に相談する」で「80～84歳」が多くなっています。

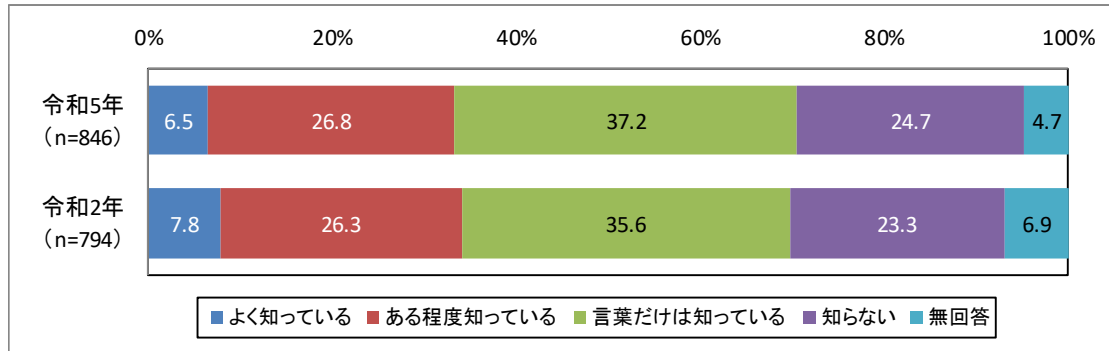
属性	区分	全体	困っていることがないか相談にのる	本人や家族を見守る	民生委員に相談する	地域包括支援センター(役場福祉課内)に相談する	その他	特に何もしない	わからない
年齢	65～69歳	100.0	11.0	41.1	12.3	13.7	0.0	11.6	32.2
		146	16	60	18	20	0	17	47
	70～74歳	100.0	19.1	44.2	19.1	17.1	0.4	8.4	29.5
		251	48	111	48	43	1	21	74
	75～79歳	100.0	20.2	36.5	18.5	14.6	1.7	9.0	27.0
		178	36	65	33	26	3	16	48
	80～84歳	100.0	19.1	31.5	17.9	20.4	0.6	6.8	29.0
162		31	51	29	33	1	11	47	
85歳以上	100.0	20.4	26.9	15.1	15.1	0.0	8.6	34.4	
	93	19	25	14	14	0	8	32	
無回答	100.0	25.0	25.0	25.0	18.8	0.0	6.3	25.0	
	16	4	4	4	3	0	1	4	

7. 成年後見制度の利用促進について

(1) 成年後見制度の認知度

「言葉だけは知っている」が 37.2%で最も多く、次いで「ある程度知っている」26.8%、「知らない」24.7%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「言葉だけは知っている」「知らない」などが増加し、「よく知っている」が減少しています。



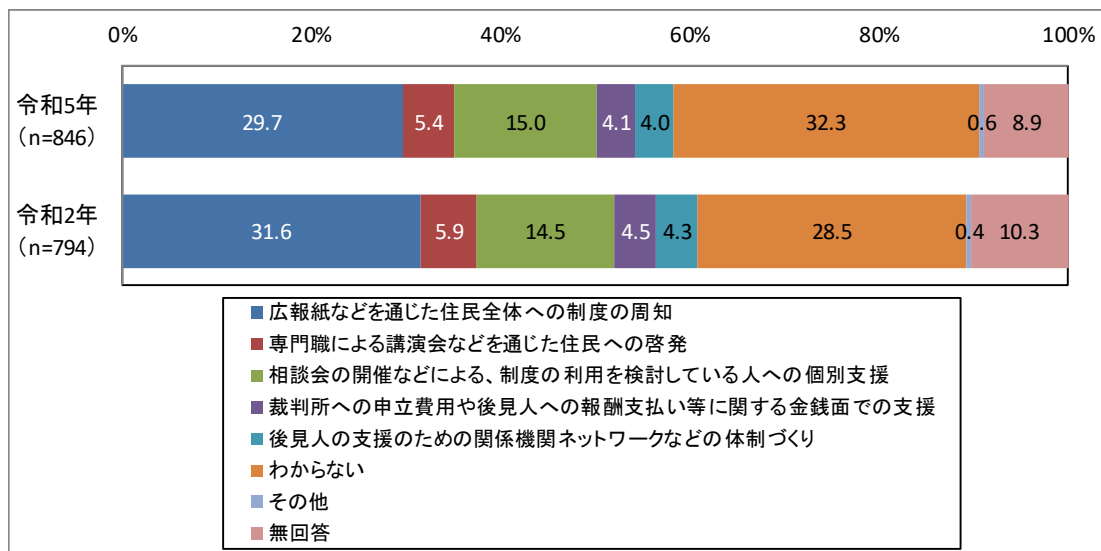
成年後見制度の認知度を年齢別で見ると、「よく知っている」で「85歳以上」、「言葉だけは知っている」で「65～79歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	よく知っている	ある程度知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
年齢	65～69歳	100.0	4.1	26.0	41.8	26.0	2.1
		146	6	38	61	38	3
	70～74歳	100.0	7.6	30.3	38.6	19.5	4.0
		251	19	76	97	49	10
	75～79歳	100.0	4.5	26.4	39.3	27.0	2.8
		178	8	47	70	48	5
	80～84歳	100.0	5.6	25.9	32.7	28.4	7.4
	162	9	42	53	46	12	
	85歳以上	100.0	11.8	23.7	30.1	24.7	9.7
	93	11	22	28	23	9	
	無回答	100.0	12.5	12.5	37.5	31.3	6.3
	16	2	2	6	5	1	

(2) 成年後見制度の利用促進を行う場合、最も効果的だと思う取り組み

「わからない」が 32.3%で最も多く、次いで「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」29.7%、「相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援」15.0%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「わからない」「相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援」などが増加し、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」などが減少しています。



成年後見制度の認知度を性別でみると、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」「専門職による講演会などを通じた住民への啓発」で「男性」が多くなっています。

年齢別では、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」で「75～79歳」が多くなっています。

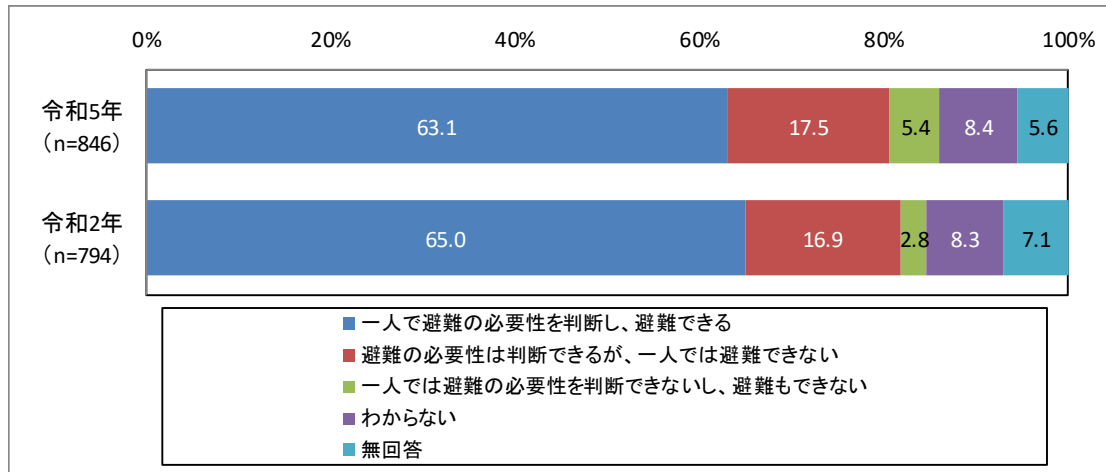
属性	区分	全体	広報紙などを通じた住民全体への周知	専門職による講演会などへの啓発	相談会の開催などによる個別支援	裁判所への申立費用や後見人への報酬支払い等に関する金銭面での支援	後見人の支援のための関係機関ネットワークなどの体制づくり	わからない	その他	無回答
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
性別	男性	100.0	34.3	7.0	15.1	5.1	3.8	29.5	1.1	4.1
		370	127	26	56	19	14	109	4	15
	女性	100.0	26.1	3.5	14.9	3.3	4.2	35.1	0.2	12.7
		456	119	16	68	15	19	160	1	58
無回答	100.0	27.8	22.2	5.6	5.6	5.6	22.2	0.0	11.1	
		18	5	4	1	1	1	4	0	2
年齢	65～69歳	100.0	31.5	4.8	21.9	6.8	3.4	28.1	0.7	2.7
		146	46	7	32	10	5	41	1	4
	70～74歳	100.0	29.5	6.4	21.1	3.6	4.8	29.1	0.8	4.8
		251	74	16	53	9	12	73	2	12
	75～79歳	100.0	35.4	5.1	7.9	3.4	3.9	32.6	1.1	10.7
		178	63	9	14	6	7	58	2	19
	80～84歳	100.0	25.3	4.9	11.1	2.5	1.9	38.3	0.0	16.0
	162	41	8	18	4	3	62	0	26	
85歳以上	100.0	23.7	3.2	9.7	5.4	6.5	38.7	0.0	12.9	
	93	22	3	9	5	6	36	0	12	
無回答	100.0	31.3	18.8	6.3	6.3	6.3	18.8	0.0	12.5	
	16	5	3	1	1	1	3	0	2	

8. 安全・安心な暮らしについて

(1) 災害時の一人での避難

「一人で避難の必要性を判断し、避難できる」が 63.1%で最も多く、次いで「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」17.5%、「わからない」8.4%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」などが増加し、「一人で避難の必要性を判断し、避難できる」が減少しています。



災害時の一人での避難を性別でみると、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」で「男性」、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」で「女性」が多くなっています。

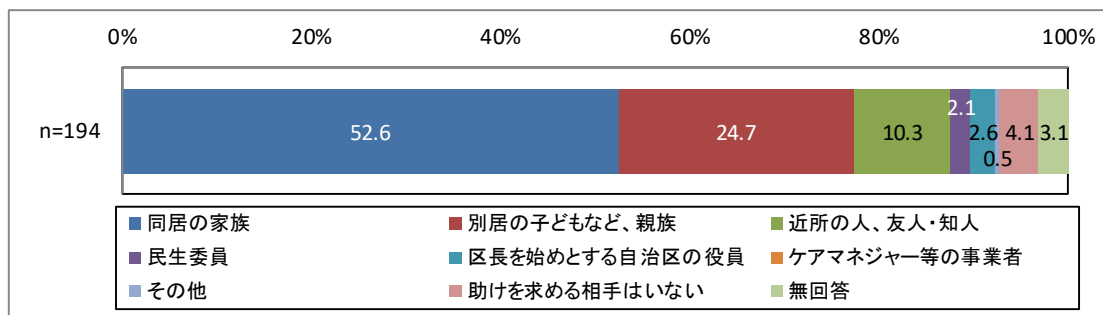
年齢別では、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」で年齢が低くなるほど多く、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」で「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	一人での避難の必要性を判断できる				
			一人では避難できないし、避難もできない	わからない	無回答	その他	その他
性別	男性	100.0	76.2	9.5	4.6	5.9	3.8
		370	282	35	17	22	14
	女性	100.0	52.9	23.5	6.1	10.5	7.0
		456	241	107	28	48	32
無回答	100.0	55.6	33.3	5.6	0.0	5.6	
		18	10	6	1	0	1
年齢	65～69歳	100.0	82.9	8.2	1.4	5.5	2.1
		146	121	12	2	8	3
	70～74歳	100.0	74.9	11.6	2.4	7.6	3.6
		251	188	29	6	19	9
	75～79歳	100.0	62.9	18.5	3.9	9.0	5.6
		178	112	33	7	16	10
	80～84歳	100.0	48.8	26.5	8.0	9.3	7.4
162		79	43	13	15	12	
85歳以上	100.0	28.0	29.0	18.3	11.8	12.9	
	93	26	27	17	11	12	
無回答	100.0	50.0	25.0	6.3	12.5	6.3	
		16	8	4	1	2	1

(2) 災害時に助けを頼める相手

「災害時の一人での避難」で「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」と回答した方

「同居の家族」が52.6%で最も多く、次いで「別居の子どもなど、親族」24.7%、「近所の人、友人・知人」10.3%の順となっています。



災害時に助けを頼める相手を性別でみると、「同居の家族」で「男性」、「別居の子どもなど、親族」「近所の人、友人・知人」で「女性」が多くなっています。

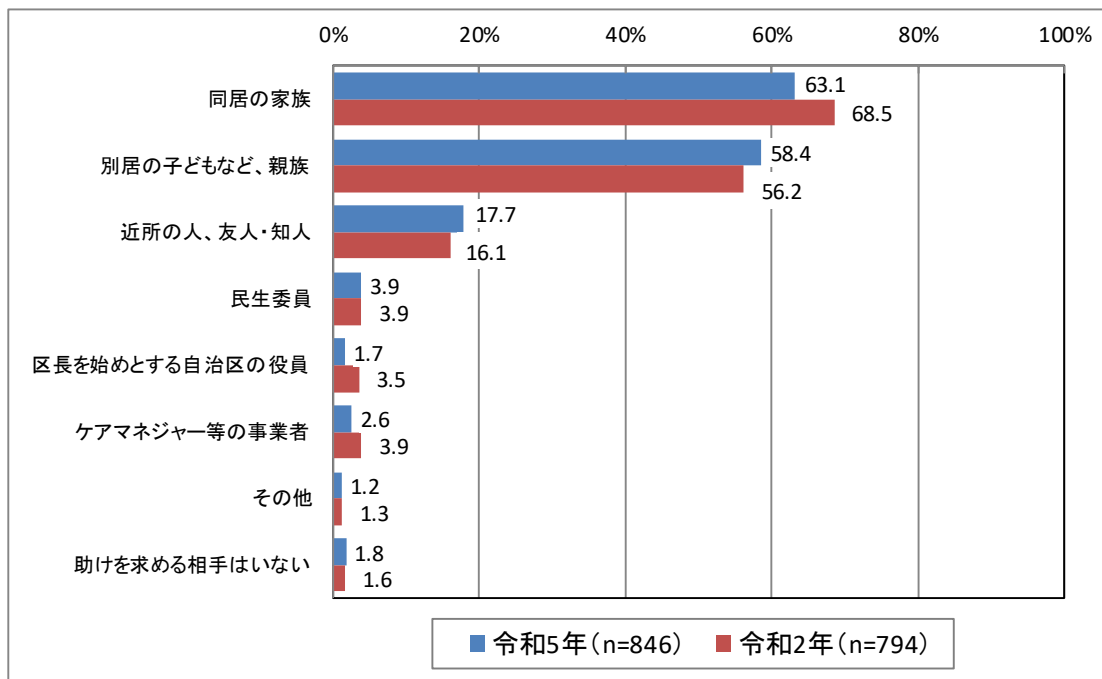
年齢別では、「同居の家族」で「80～84歳」、「別居の子どもなど、親族」で「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	助けを頼める相手								
			同居の家族	別居の子どもなど、親族	近所の人、友人・知人	民生委員	区長を始めとする自治区の役員	ケアマネジャー等の事業者	その他	助けをを求める相手はいない	無回答
性別	男性	100.0	63.5	13.5	7.7	1.9	1.9	0.0	0.0	5.8	5.8
		52	33	7	4	1	1	0	0	3	3
	女性	100.0	50.4	28.9	10.4	2.2	1.5	0.0	0.7	3.7	2.2
		135	68	39	14	3	2	0	1	5	3
	無回答	100.0	14.3	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
		7	1	2	2	0	2	0	0	0	0
年齢	65～69歳	100.0	57.1	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
		14	8	3	1	0	0	0	0	2	0
	70～74歳	100.0	54.3	28.6	8.6	0.0	5.7	0.0	0.0	2.9	0.0
		35	19	10	3	0	2	0	0	1	0
	75～79歳	100.0	50.0	12.5	12.5	2.5	5.0	0.0	0.0	7.5	10.0
		40	20	5	5	1	2	0	0	3	4
	80～84歳	100.0	66.1	14.3	12.5	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	1.8
		56	37	8	7	2	0	0	0	1	1
85歳以上	100.0	38.6	45.5	9.1	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	
	44	17	20	4	1	0	0	0	1	1	
無回答	100.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
	5	1	2	0	0	1	0	1	0	0	

(3) 緊急時に助けを求める相手

「同居の家族」が63.1%で最も多く、次いで「別居の子どもなど、親族」58.4%、「近所の人、友人・知人」17.7%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「別居の子どもなど、親族」「近所の人、友人・知人」などが増加し、「同居の家族」などが減少しています。



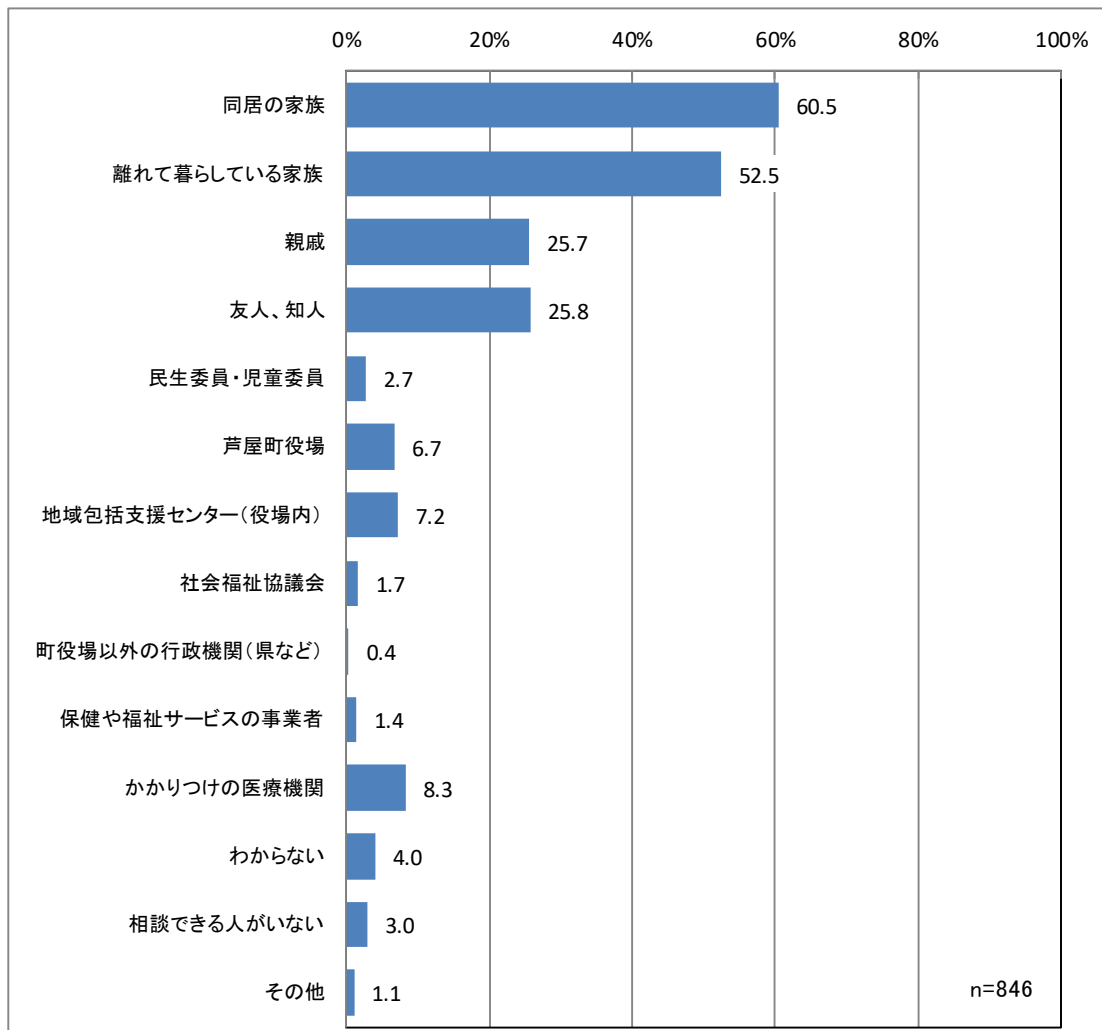
緊急時に助けを求める相手を性別でみると、「同居の家族」で「男性」、「別居の子どもなど、親族」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「同居の家族」で「65～74歳」、「近所の人、友人・知人」で「80歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	助けを求める相手								
			同居の家族	別居の子どもなど、親族	近所の人、友人・知人	民生委員	区長を始めとする自治区の役員	ケアマネジャー等の事業者	その他	助けを求める相手はいない	
性別	男性	100.0	74.6	52.4	16.8	4.6	2.7	1.6	1.4	3.0	
		370	276	194	62	17	10	6	5	11	
	女性	100.0	53.9	63.8	18.9	3.5	0.7	3.1	1.1	0.9	
		456	246	291	86	16	3	14	5	4	
無回答	100.0	61.1	50.0	11.1	0.0	5.6	11.1	0.0	0.0		
	18	11	9	2	0	1	2	0	0		
年齢	65～69歳	100.0	69.9	56.2	14.4	0.7	1.4	1.4	1.4	4.1	
		146	102	82	21	1	2	2	2	6	
	70～74歳	100.0	68.1	61.8	16.3	4.8	2.8	1.2	0.8	1.6	
		251	171	155	41	12	7	3	2	4	
	75～79歳	100.0	61.8	56.7	16.3	2.2	0.6	2.8	1.7	1.7	
		178	110	101	29	4	1	5	3	3	
	80～84歳	100.0	63.0	53.7	22.2	6.8	0.6	3.1	1.2	1.2	
162		102	87	36	11	1	5	2	2		
85歳以上	100.0	44.1	64.5	22.6	4.3	2.2	4.3	1.1	0.0		
	93	41	60	21	4	2	4	1	0		
無回答	100.0	50.0	56.3	12.5	6.3	6.3	18.8	0.0	0.0		
	16	8	9	2	1	1	3	0	0		

(4) 悩みや心配ごとがあった場合の相談先

「同居の家族」が 60.5%で最も多く、次いで「離れて暮らしている家族」52.5%、「友人、知人」25.8%の順となっています。



悩みや心配ごとがあった場合の相談先を性別で見ると、「同居の家族」で「男性」、「離れて暮らしている家族」「友人、知人」で「女性」が多くなっています。

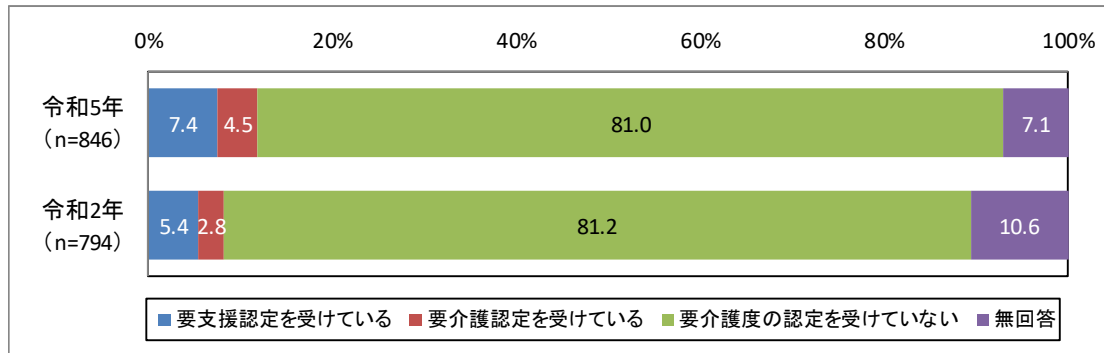
属性	区分	全体	相談先													
			同居の家族	離れて暮らしている家族	親戚	友人、知人	民生委員・児童委員	芦屋町役場	地域包括支援センター(役場内)	社会福祉協議会	町役場以外の行政機関(県など)	保健や福祉サービスの事業者	かかりつけの医療機関	わからない	相談できる人がいない	その他
性別	男性	100.0	68.9	46.5	25.1	18.1	1.9	6.8	7.0	1.6	0.5	1.9	8.6	5.4	4.3	1.4
		370	255	172	93	67	7	25	26	6	2	7	32	20	16	5
	女性	100.0	54.2	57.9	26.1	32.0	3.5	6.8	7.7	1.8	0.2	1.1	8.1	3.1	2.0	0.9
		456	247	264	119	146	16	31	35	8	1	5	37	14	9	4
	無回答	100.0	50.0	44.4	27.8	22.2	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0
		18	9	8	5	4	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0

9. 介護について

(1) 要介護度の認定状況

「要介護度の認定を受けていない」が 81.0%で最も多く、次いで「要支援認定を受けている」7.4%、「要介護認定を受けている」4.5%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「要支援認定を受けている」「要介護認定を受けている」などが増加しています。

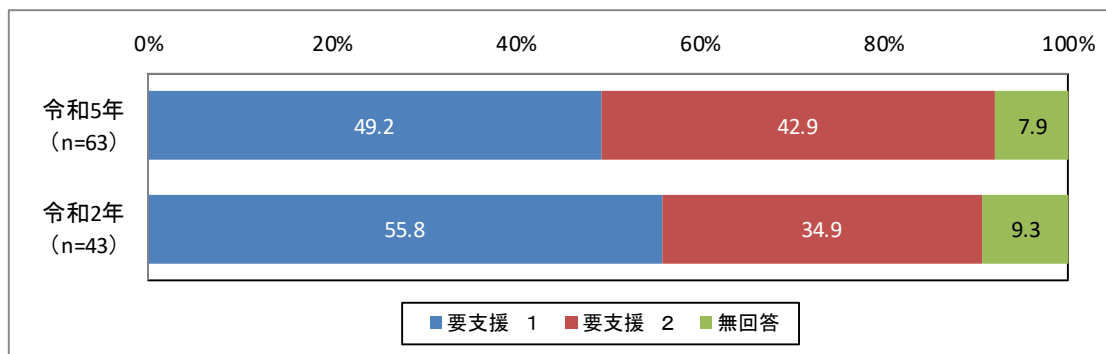


(2) 要支援認定の内訳

「要介護度の認定状況」で「要支援認定を受けている」と回答した方

「要支援 1」が 49.2%、「要支援 2」が 42.9%となっています。

令和2年調査と比較すると「要支援 2」が増加し、「要支援 1」が減少しています。

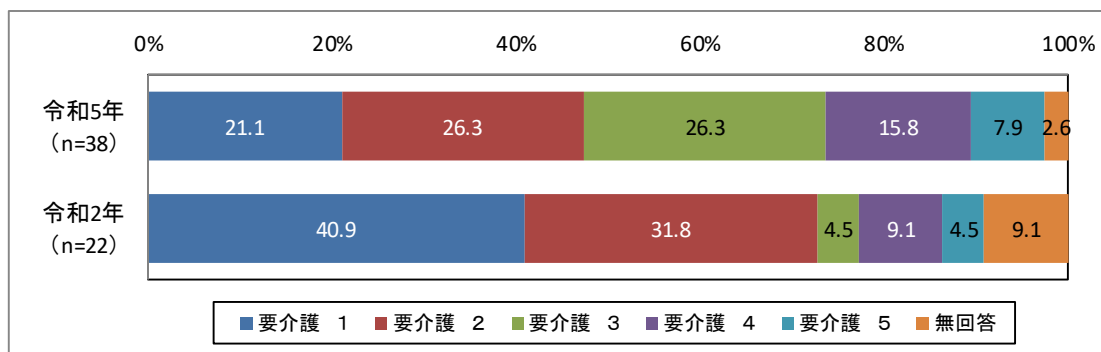


(3) 要介護認定の内訳

「要介護度の認定状況」で「要介護認定を受けている」と回答した方

「要介護 2」「要介護 3」が 26.3%で最も多く、次いで「要介護 1」21.1%、「要介護 4」15.8%の順となっています。

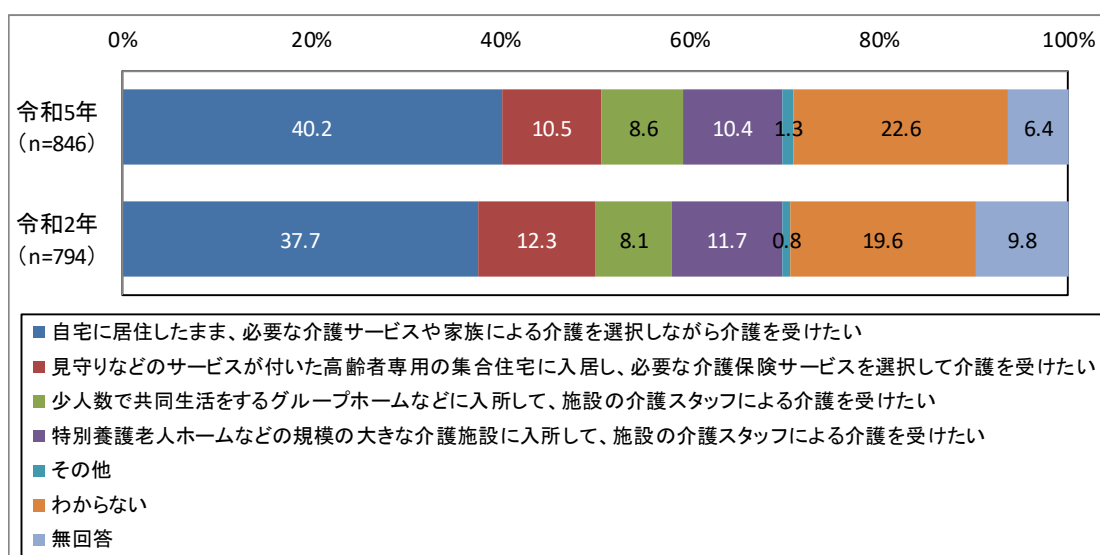
令和2年調査と比較すると「要介護 3」などが増加し、「要支援 1」などが減少しています。



(4) 介護を受ける場合に受きたい介護

「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」が 40.2%で最も多く、次いで「わからない」22.6%、「見守りなどのサービスが付いた高齢者専用の集合住宅に入居し、必要な介護保険サービスを選択して介護を受けたい」10.5%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「わからない」「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」などが増加し、「見守りなどのサービスが付いた高齢者専用の集合住宅に入居し、必要な介護保険サービスを選択して介護を受けたい」などが減少しています。



介護を受ける場合に受ける介護を性別でみると、「自宅に居住したまま、介護を受けたい」「特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい」で「男性」、「高齢者専用の集合住宅に入居し、介護を受けたい」「グループホームなどに入所して、介護を受けたい」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「高齢者専用の集合住宅に入居し、介護を受けたい」で「70～74歳」、「グループホームなどに入所して、介護を受けたい」で「75～79歳」、「特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい」で「85歳以上」が多くなっています。

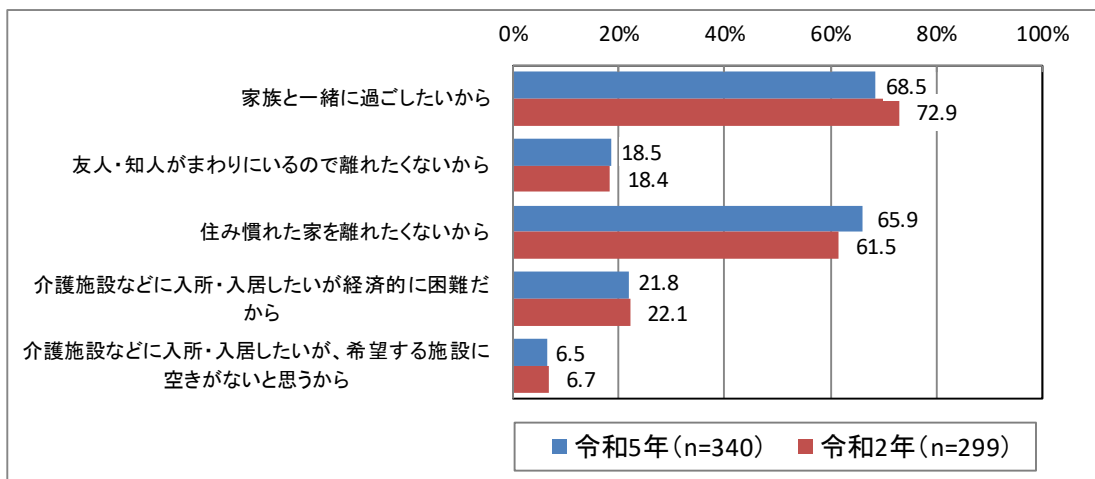
属性	区分	全体	介護を受ける場合に受ける介護の種類						
			自宅に居住したまま、必要に応じて介護を受けたい	高齢者専用の集合住宅に入居し、介護を受けたい	見守りなどのサービスが付いた高齢者専用の集合住宅に入居し、必要に応じて介護を受けたい	グループホームなどに入所して、介護を受けたい	少人数で共同生活をするグループホームなどに入所して、介護を受けたい	規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい
性別	男性	100.0	44.9	7.8	6.2	12.4	1.9	21.9	4.9
		370	166	29	23	46	7	81	18
	女性	100.0	35.7	12.9	10.5	9.2	0.9	23.9	6.8
		456	163	59	48	42	4	109	31
無回答	100.0	55.6	5.6	11.1	0.0	0.0	5.6	22.2	
	18	10	1	2	0	0	1	4	
年齢	65～69歳	100.0	39.7	10.3	8.9	8.2	2.1	26.0	4.8
		146	58	15	13	12	3	38	7
	70～74歳	100.0	41.4	14.7	7.2	10.8	0.8	20.7	4.4
		251	104	37	18	27	2	52	11
	75～79歳	100.0	36.5	9.6	11.2	9.0	0.6	28.7	4.5
		178	65	17	20	16	1	51	8
	80～84歳	100.0	41.4	8.0	8.6	11.1	1.2	20.4	9.3
		162	67	13	14	18	2	33	15
	85歳以上	100.0	41.9	6.5	6.5	16.1	2.2	18.3	8.6
		93	39	6	6	15	2	17	8
無回答	100.0	43.8	6.3	12.5	0.0	6.3	0.0	31.3	
	16	7	1	2	0	1	0	5	

(5) 自宅で介護を受けたいと思う理由

「介護を受ける場合に受けたい介護」で「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」と回答した方

「家族と一緒に過ごしたいから」が 68.5%で最も多く、次いで「住み慣れた家を離れたくないから」65.9%、「介護施設などに入所・入居したいが経済的に困難だから」21.8%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「住み慣れた家を離れたくないから」などが増加し、「家族と一緒に過ごしたいから」などが減少しています。



自宅で介護を受けたいと思う理由を性別で見ると、「家族と一緒に過ごしたいから」で「男性」が多くなっています。

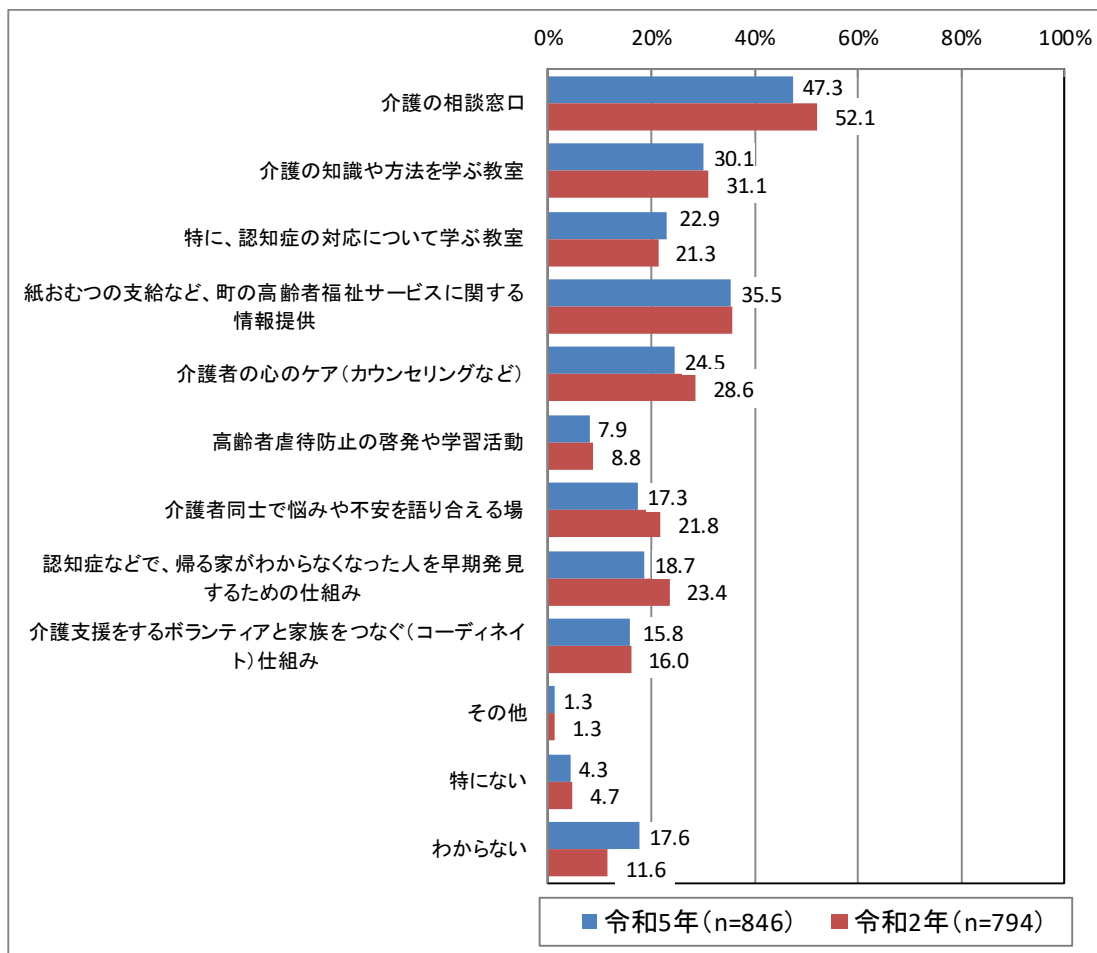
年齢別では、「友人・知人がまわりにいるので離れたくないから」で「75歳以上」、「住み慣れた家を離れたくないから」で「70～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	家族と一緒に過ごしたいから	友人・知人がまわりにいるので離れたくないから	住み慣れた家を離れたくないから	介護施設などに入所・入居したいが経済的に困難だから	介護施設などに入所・入居したいが、希望する施設に空きがないと思うから
			割合	割合	割合	割合	割合
性別	男性	100.0	78.9	19.3	68.1	20.5	5.4
		166	131	32	113	34	9
	女性	100.0	57.7	18.4	63.8	23.3	6.7
		163	94	30	104	38	11
	無回答	100.0	70.0	10.0	60.0	20.0	20.0
		10	7	1	6	2	2
年齢	65～69歳	100.0	74.1	6.9	55.2	32.8	8.6
		58	43	4	32	19	5
	70～74歳	100.0	70.2	14.4	74.0	18.3	3.8
		104	73	15	77	19	4
	75～79歳	100.0	60.0	24.6	64.6	23.1	9.2
		65	39	16	42	15	6
	80～84歳	100.0	73.1	26.9	62.7	13.4	6.0
		67	49	18	42	9	4
85歳以上	100.0	59.0	25.6	69.2	25.6	5.1	
	39	23	10	27	10	2	
	無回答	100.0	85.7	0.0	57.1	28.6	14.3
		7	6	0	4	2	1

(6) 高齢者を介護する家族に必要な支援

「介護の相談窓口」が 47.3%で最も多く、次いで「紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供」35.5%、「介護の知識や方法を学ぶ教室」30.1%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「わからない」「特に、認知症の対応について学ぶ教室」などが増加し、「介護の相談窓口」などが減少しています。



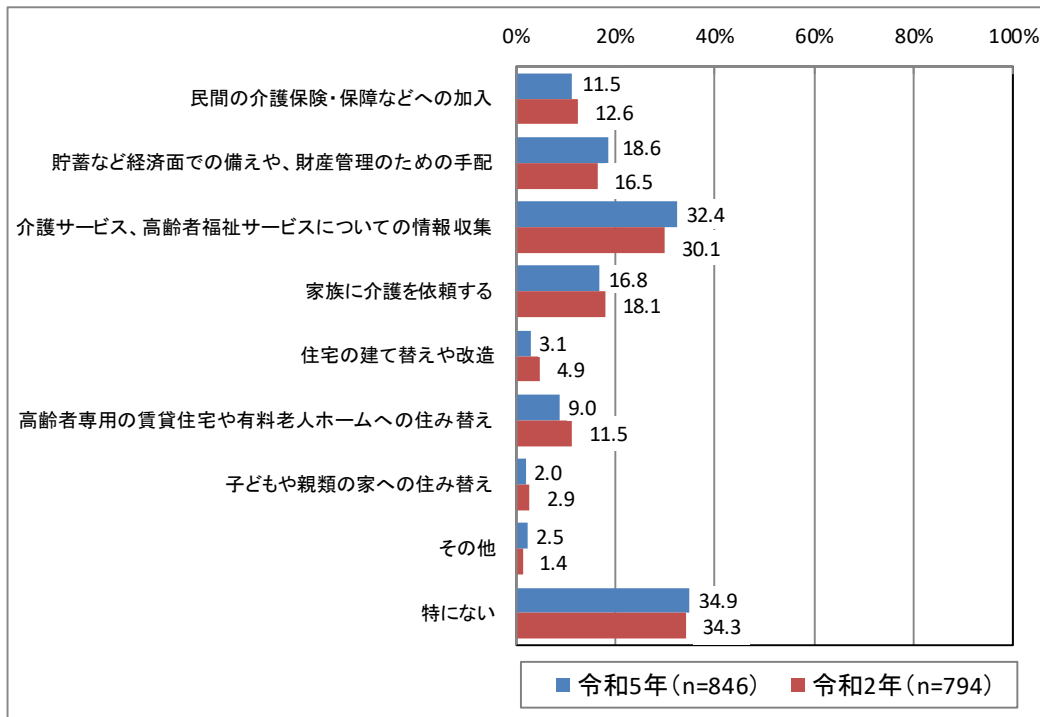
高齢者を介護する家族に必要な支援を性別でみると、「介護の相談窓口」で「男性」、「紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供」で「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	支援項目												
			介護の相談窓口	介護の知識や方法を学ぶ教室	特に、認知症の対応について学ぶ教室	紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供	介護者の心のケア(カウンセリングなど)	高齢者虐待防止の啓発や学習活動	介護者同士で悩みや不安を語り合える場	認知症などで、帰る家が変わらなくなった人を早期発見するための仕組み	介護支援をするボランティアと家族をつなぐ(コーディネイト)仕組み	その他	特にない	わからない	
性別	男性	100.0	52.2	32.2	24.6	29.2	22.7	9.2	17.0	17.6	16.2	1.6	4.1	20.0	
		370	193	119	91	108	84	34	63	65	60	6	15	74	
	女性	100.0	43.2	28.3	21.1	40.4	25.7	6.6	17.1	19.1	15.1	1.1	4.4	16.4	
	456	197	129	96	184	117	30	78	87	69	5	20	75		
無回答	100.0	50.0	38.9	33.3	38.9	27.8	16.7	22.2	27.8	22.2	0.0	5.6	0.0		
	18	9	7	6	7	5	3	4	5	4	0	1	0		

(7) 要介護状態になった場合への備え

「特にない」が 34.9%で最も多く、次いで「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」32.4%、「貯蓄など経済面での備えや、財産管理のための手配」18.6%の順となっています。

令和2年調査と比較すると「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」などが増加し、「高齢者専用の賃貸住宅や有料老人ホームへの住み替え」などが減少しています。



要介護状態になった場合への備えを性別でみると、「家族に介護を依頼する」で「男性」、「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」で「女性」が多くなっています。

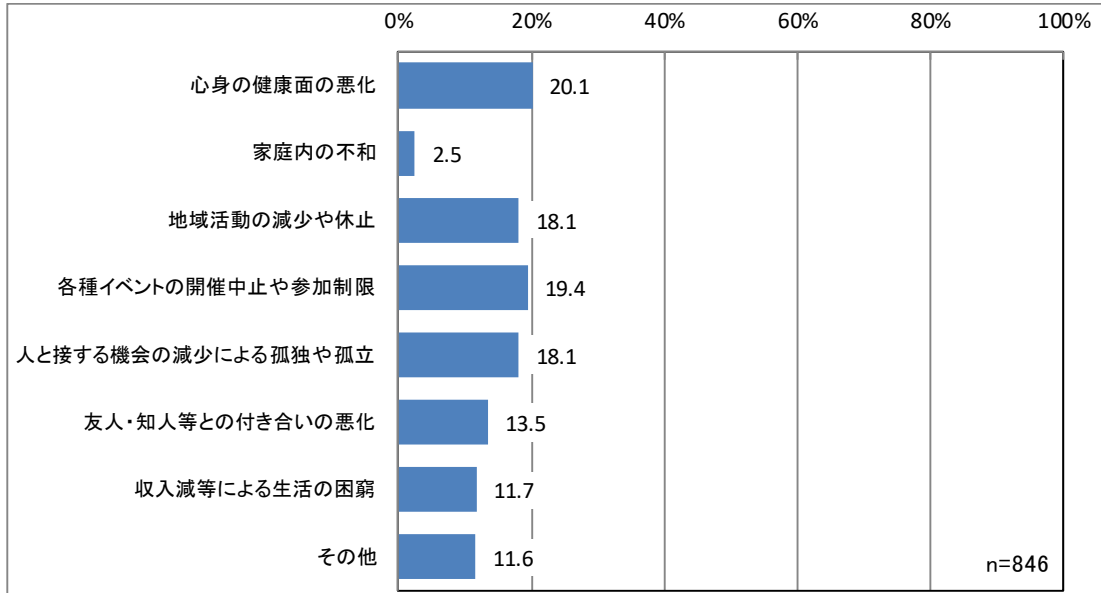
年齢別では、「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「民間の介護保険・保障などへの加入」で「65～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	備え								
			民間の介護保険・保障などへの加入	や、貯蓄など経済面での備えや、財産管理のための手配	介護サービスについて、高齢者福祉サービス	家族に介護を依頼する	住宅の建て替えや改造	高齢者専用の賃貸住宅や有料老人ホームへの住み替え	子どもや親類の家への住み替え	その他	特にない
性別	男性	100.0	12.4	18.9	29.5	21.1	4.3	8.4	1.6	3.0	39.7
		370	46	70	109	78	16	31	6	11	147
	女性	100.0	9.9	18.2	34.2	12.5	2.2	9.9	2.4	2.2	32.2
		456	45	83	156	57	10	45	11	10	147
	無回答	100.0	33.3	16.7	44.4	38.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
		18	6	3	8	7	0	0	0	0	1
年齢	65～69歳	100.0	14.4	18.5	21.9	8.9	2.7	10.3	2.1	2.7	47.9
		146	21	27	32	13	4	15	3	4	70
	70～74歳	100.0	14.3	20.7	32.7	13.9	4.0	8.4	1.6	0.8	37.8
		251	36	52	82	35	10	21	4	2	95
	75～79歳	100.0	7.9	17.4	33.1	12.9	3.9	9.0	2.8	3.4	36.0
		178	14	31	59	23	7	16	5	6	64
	80～84歳	100.0	10.5	16.7	37.0	25.3	2.5	9.3	1.9	2.5	23.5
		162	17	27	60	41	4	15	3	4	38
85歳以上	100.0	4.3	18.3	37.6	24.7	1.1	9.7	1.1	5.4	30.1	
	93	4	17	35	23	1	9	1	5	28	
	無回答	100.0	31.3	18.8	37.5	43.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
		16	5	3	6	7	0	0	1	0	0

10. コロナ禍における暮らしについて

(1) コロナ禍の生活で困っていること

「心身の健康面の悪化」が 20.1%で最も多く、次いで「各種イベントの開催中止や参加制限」19.4%、「地域活動の減少や休止」「人と接する機会の減少による孤独や孤立」18.1%の順となっています。



コロナ禍の生活で困っていることを性別で見ると、「友人・知人等との付き合いの悪化」「収入減等による生活の困窮」で「男性」、「心身の健康面の悪化」で「女性」が多くなっています。

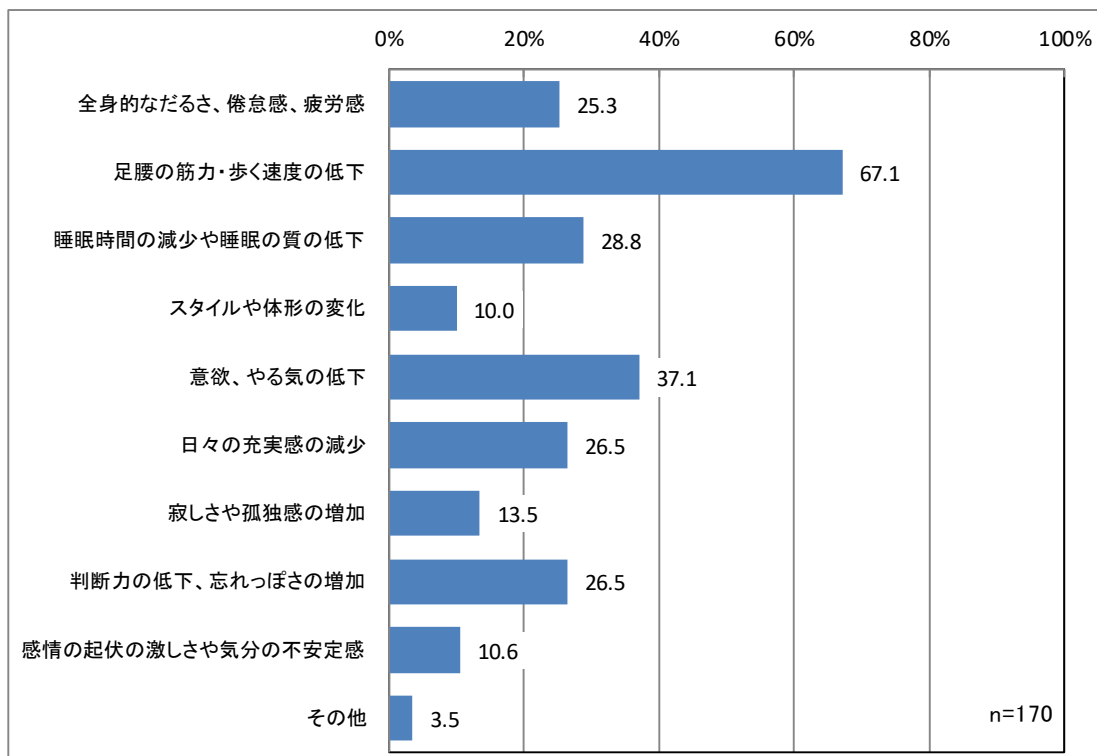
年齢別では、「心身の健康面の悪化」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「収入減等による生活の困窮」で「65～69歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	困っていること							
			心身の健康面の悪化	家庭内の不和	地域活動の減少や休止	各種イベントの開催中止や参加制限	人と接する機会の減少による孤独や孤立	友人・知人等との付き合いの悪化	収入減等による生活の困窮	その他
性別	男性	100.0	18.6	2.7	17.6	20.5	18.6	16.2	15.9	13.8
		370	69	10	65	76	69	60	59	51
	女性	100.0	21.3	2.4	18.2	18.0	17.3	11.4	8.6	10.3
		456	97	11	83	82	79	52	39	47
無回答	100.0	22.2	0.0	22.2	33.3	27.8	11.1	5.6	0.0	
	18	4	0	4	6	5	2	1	0	
年齢	65～69歳	100.0	16.4	1.4	11.6	17.8	15.1	13.7	18.5	15.8
		146	24	2	17	26	22	20	27	23
	70～74歳	100.0	17.9	3.2	18.7	19.9	16.3	16.7	10.8	10.0
		251	45	8	47	50	41	42	27	25
	75～79歳	100.0	19.1	2.2	19.7	18.5	18.5	14.0	13.5	11.2
		178	34	4	35	33	33	25	24	20
	80～84歳	100.0	22.8	3.7	19.8	19.1	21.0	9.9	8.6	9.9
		162	37	6	32	31	34	16	14	16
85歳以上	100.0	29.0	1.1	18.3	18.3	20.4	9.7	5.4	15.1	
	93	27	1	17	17	19	9	5	14	
無回答	100.0	18.8	0.0	31.3	43.8	25.0	12.5	12.5	0.0	
	16	3	0	5	7	4	2	2	0	

(2) 具体的に悪化した部分

「コロナ禍の生活で困っていること」で「心身の健康面の悪化」と回答した方

「足腰の筋力・歩く速度の低下」が67.1%で最も多く、次いで「意欲、やる気の低下」37.1%、「睡眠時間の減少や睡眠の質の低下」28.8%の順となっています。



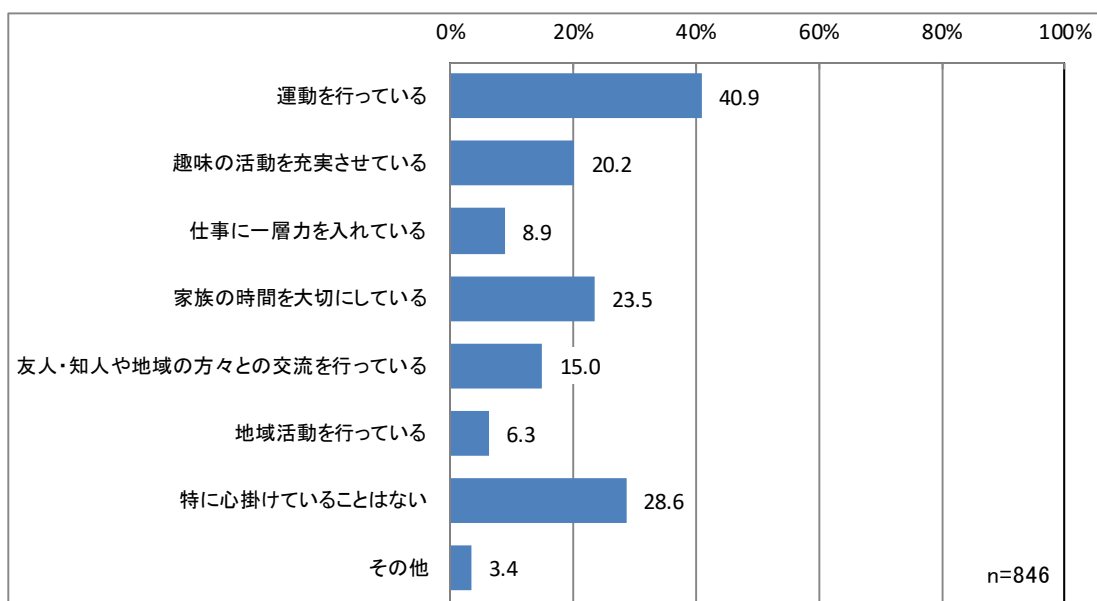
具体的に悪化した部分を性別でみると、「日々の充実感の減少」で「男性」、「スタイルや体形の変化」「寂しさや孤独感の増加」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「足腰の筋力・歩く速度の低下」で「70～79歳」、「寂しさや孤独感の増加」で「85歳以上」、「判断力の低下、忘れっぽさの増加」で「80歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	全身的なだるさ、倦怠感、疲労感	足腰の筋力・歩く速度の低下	睡眠時間の減少や睡眠の質の低下	スタイルや体形の変化	意欲、やる気の低下	日々の充実感の減少	寂しさや孤独感の増加	判断力の低下、忘れっぽさの増加	感情の起伏の激しさや気分不安定感	その他
性別	男性	100.0	24.6	66.7	24.6	5.8	34.8	37.7	7.2	29.0	11.6	2.9
		69	17	46	17	4	24	26	5	20	8	2
	女性	100.0	26.8	66.0	30.9	12.4	39.2	18.6	17.5	25.8	10.3	4.1
		97	26	64	30	12	38	18	17	25	10	4
無回答	100.0	0.0	100.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	4	0	4	2	1	1	1	1	0	0	0	
年齢	65～69歳	100.0	37.5	54.2	37.5	8.3	50.0	29.2	4.2	20.8	8.3	0.0
		24	9	13	9	2	12	7	1	5	2	0
	70～74歳	100.0	26.7	71.1	26.7	8.9	31.1	24.4	13.3	20.0	6.7	4.4
		45	12	32	12	4	14	11	6	9	3	2
	75～79歳	100.0	11.8	70.6	20.6	17.6	47.1	23.5	5.9	26.5	11.8	5.9
		34	4	24	7	6	16	8	2	9	4	2
	80～84歳	100.0	27.0	64.9	32.4	5.4	29.7	27.0	16.2	32.4	8.1	0.0
		37	10	24	12	2	11	10	6	12	3	0
85歳以上	100.0	29.6	66.7	29.6	7.4	33.3	25.9	25.9	33.3	18.5	7.4	
	27	8	18	8	2	9	7	7	9	5	2	
無回答	100.0	0.0	100.0	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	
	3	0	3	1	1	1	2	1	1	1	0	

(3) 気力や体力が低下しないために心がけていること

「運動を行っている」が40.9%で最も多く、次いで「特に心掛けていることはない」28.6%、「家族の時間を大切にしている」23.5%の順となっています。



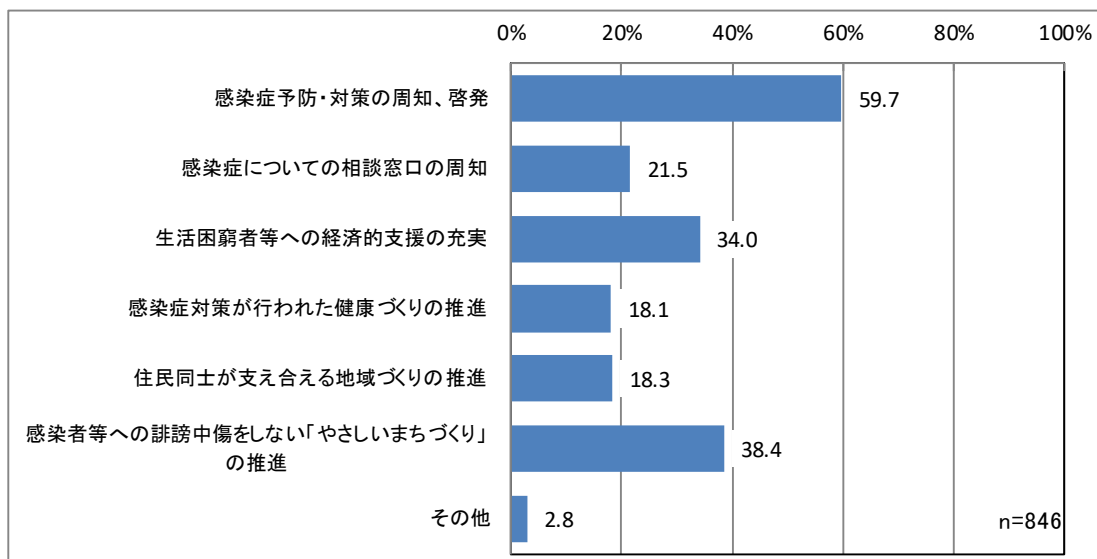
気力や体力が低下しないために心がけていることを性別でみると、「趣味の活動を充実させている」で「男性」、「友人・知人や地域の方々との交流を行っている」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「友人・知人や地域の方々との交流を行っている」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「運動を行っている」で「75～84歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	運動を行っている	趣味の活動を充実させている	仕事に一層力を入れている	家族の時間を大切にしている	友人・知人や地域の方々との交流を行っている	地域活動を行っている	特に心掛けていない	その他
				いる	いる	いる	いる	いる	いる	いる
性別	男性	100.0	43.8	26.2	11.1	23.2	9.7	5.9	31.1	3.0
		370	162	97	41	86	36	22	115	11
	女性	100.0	37.7	14.9	7.0	23.2	18.4	6.1	27.4	3.9
		456	172	68	32	106	84	28	125	18
	無回答	100.0	55.6	27.8	11.1	38.9	27.8	16.7	11.1	0.0
		18	10	5	2	7	5	3	2	0
年齢	65～69歳	100.0	33.6	19.2	14.4	28.8	8.9	2.7	34.2	4.1
		146	49	28	21	42	13	4	50	6
	70～74歳	100.0	38.2	22.3	12.7	24.7	13.9	6.8	29.1	1.2
		251	96	56	32	62	35	17	73	3
	75～79歳	100.0	44.9	19.7	7.3	23.6	15.2	5.6	24.2	4.5
		178	80	35	13	42	27	10	43	8
	80～84歳	100.0	46.3	21.6	4.3	19.1	16.0	8.0	27.2	3.7
	162	75	35	7	31	26	13	44	6	
85歳以上	100.0	38.7	12.9	0.0	18.3	21.5	6.5	31.2	6.5	
	93	36	12	0	17	20	6	29	6	
無回答	100.0	62.5	31.3	12.5	31.3	37.5	18.8	18.8	0.0	
	16	10	5	2	5	6	3	3	0	

(4) 不安解消のために大切だと思うこと

「感染症予防・対策の周知、啓発」が59.7%で最も多く、次いで「感染者等への誹謗中傷をしない「やさしいまちづくり」の推進」38.4%、「生活困窮者等への経済的支援の充実」34.0%の順となっています。



不安解消のために大切だと思うことを性別でみると、「生活困窮者等への経済的支援の充実」で「男性」、「感染者等への誹謗中傷をしない「やさしいまちづくり」の推進」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「生活困窮者等への経済的支援の充実」で「65～74歳」、「感染症対策が行われた健康づくりの推進」で「85歳以上」が多くなっています。

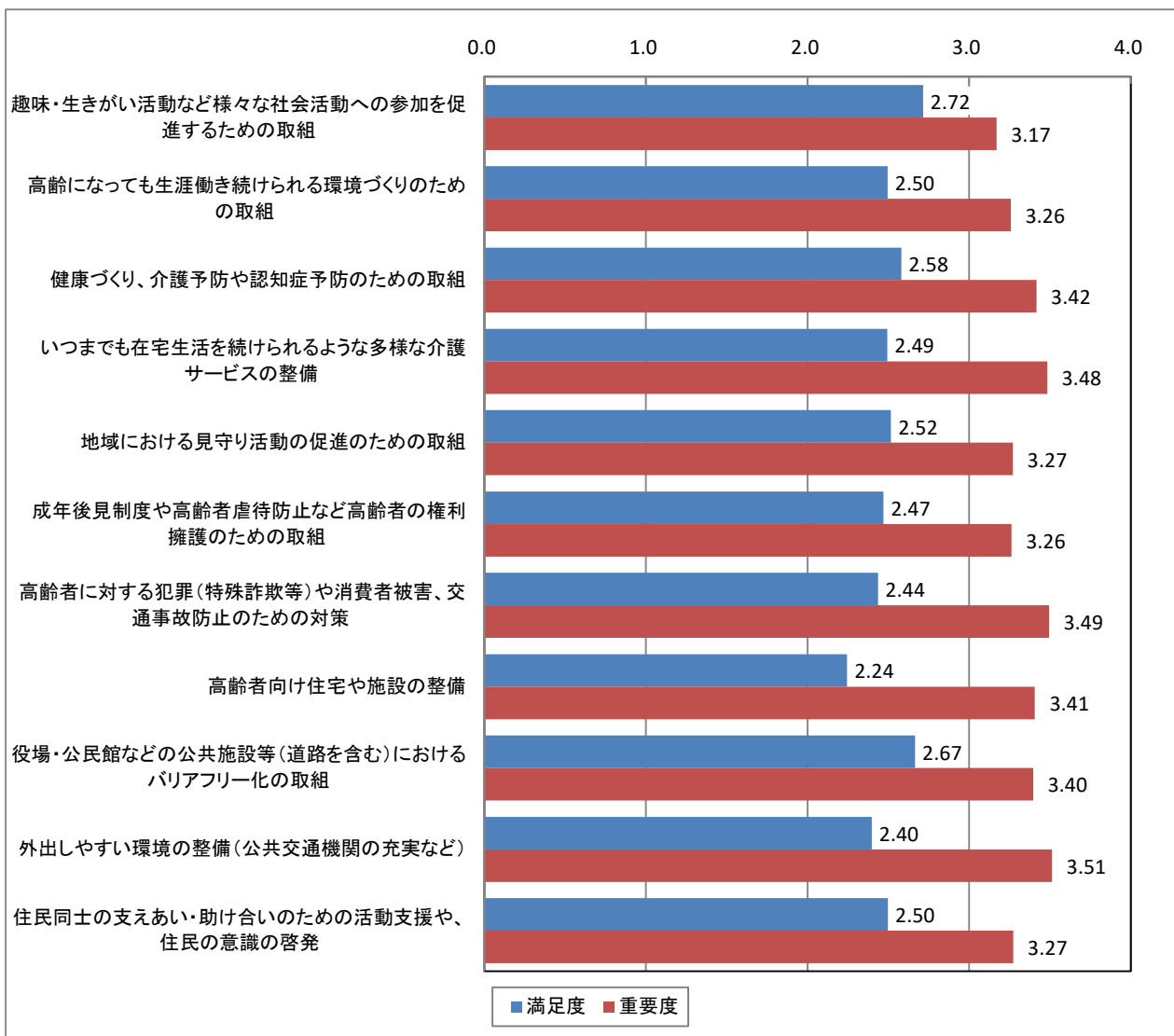
属性	区分	全体	感染症予防・対策の周知、啓発	感染症についての相談窓口	生活困窮者等への経済的支援	感染症対策が行われた健康推進	住民同士が支え合える地域推進	感染者等への誹謗中傷をしない「やさしいまちづくり」の推進	その他
			啓発	の周知	の充実	の健康	の地域	のまちづくり	の推進
性別	男性	100.0	62.2	19.5	37.3	19.2	17.8	35.7	3.5
		370	230	72	138	71	66	132	13
	女性	100.0	57.7	22.4	32.2	16.7	18.9	40.1	2.4
		456	263	102	147	76	86	183	11
無回答	100.0	61.1	38.9	11.1	27.8	16.7	50.0	0.0	
		18	11	7	2	5	3	9	0
年齢	65～69歳	100.0	58.2	24.7	39.0	13.7	10.3	39.0	4.8
		146	85	36	57	20	15	57	7
	70～74歳	100.0	59.4	22.3	41.0	18.7	19.1	41.8	1.6
		251	149	56	103	47	48	105	4
	75～79歳	100.0	61.8	17.4	34.8	15.2	19.7	39.9	2.8
		178	110	31	62	27	35	71	5
	80～84歳	100.0	57.4	21.6	25.3	19.8	21.0	35.2	3.1
		162	93	35	41	32	34	57	5
85歳以上	100.0	63.4	20.4	24.7	22.6	21.5	30.1	3.2	
	93	59	19	23	21	20	28	3	
無回答	100.0	56.3	31.3	12.5	37.5	18.8	43.8	0.0	
		16	9	5	2	6	3	7	0

10. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について

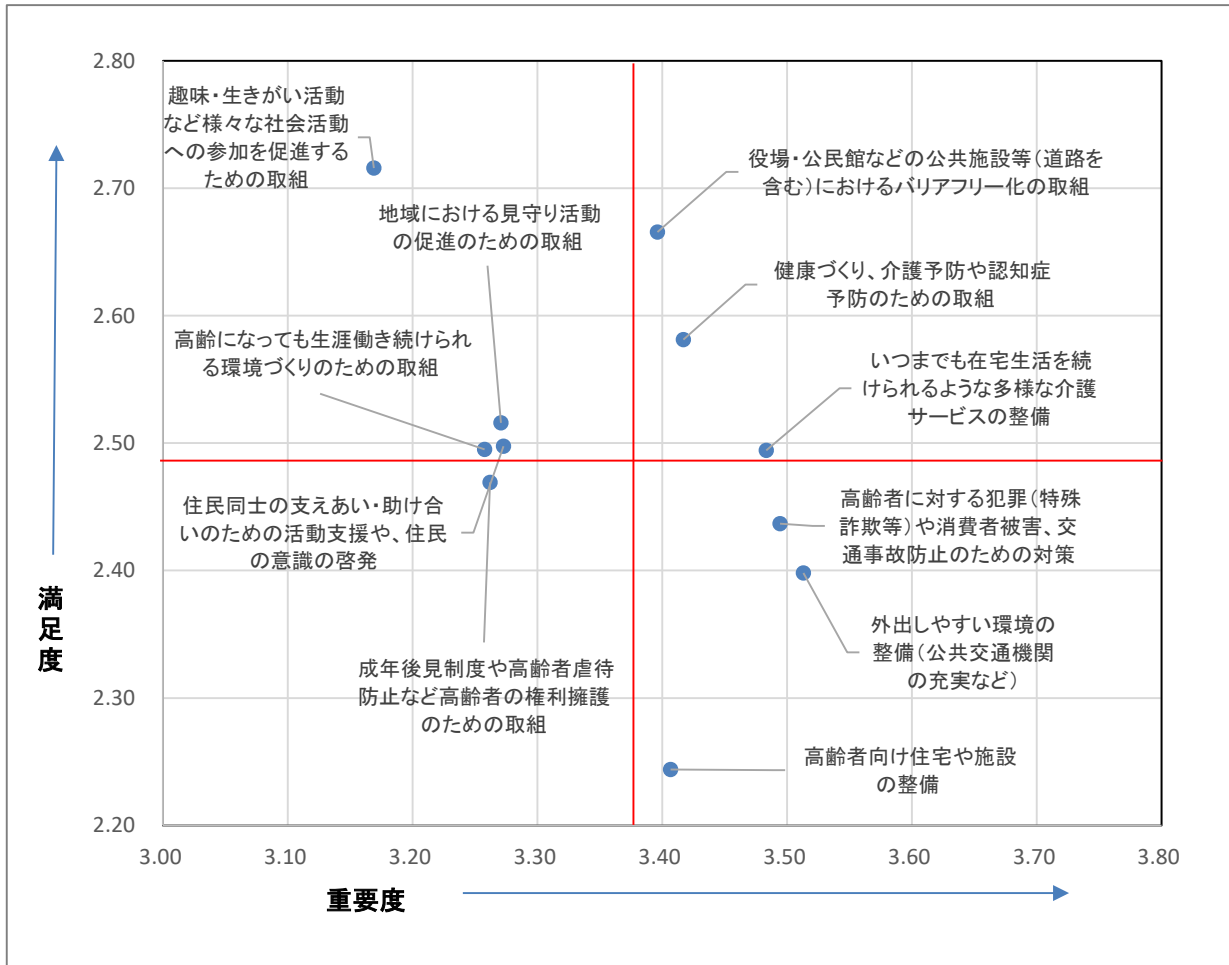
(1) 高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策の満足度と重要度

高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策の満足度と重要度を、満足度では「満足=4点」「やや満足=3点」「やや不満=2点」「不満=1点」とし、重要度では「重要=4点」「やや重要=3点」「あまり重要ではない=2点」「重要ではない=1点」として点数化し、項目ごとに比較しました。

最も重要度が高い取り組みは、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」次いで、「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」、「いつまでも在宅生活を続けられるような多様な介護サービスの整備」の順となっており、満足度が高い取り組みとしては「趣味・生きがい活動など様々な社会活動への参加を促進するための取組」、「役場・公民館などの公共施設等（道路を含む）におけるバリアフリー化の取組」、「健康づくり、介護予防や認知症予防のための取組」の順となっています。



また、満足度と重要度の相関をみると、重要度は高いものの満足度が低い施策としては、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」「高齢者向け住宅や施設の整備」「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」などがあがっています。



Ⅲ 調査結果から見る現状と課題

1. 回答者の属性

アンケート調査の回答者をみると、「男性」より「女性」が多くなっており、年齢では「70～74歳」が最も多く全体の3割近くを占めます。

居住地区においては「山鹿小学校区」が多く、全体の4割以上を占めます。

世帯の状況は「夫婦二人暮らし世帯」が最も多く4割以上を占めますが、「一人暮らし世帯」の方が全体の4分の1程度となっています。

今後さらに、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者のみの夫婦世帯が増加していくことが見込まれますので、地域を含めた支援体制の整備が必要です。

2. 日常生活の様子について

日常生活での困りごとでは、「特にない」が6割近くと最も多くなっていますが、「自分や家族の病気や介護のこと」という回答も一定数みられます。また、「炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと」「生活必需品の買い物のこと」「外出時の移動手段のこと」では、高齢になるほど困っているとした結果がみられます。

日常生活で困ったときに支えてくれる人では、「同居の家族」の割合が58.3%と最も多くなっていますが、前回調査より6.6ポイント減少しており、「同居していない家族や親戚」が5.2ポイント増加しています。

将来の生活で不安に感じることでは、「自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」の割合が72.8%と最も多くなっており、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が不安に感じる割合が多くなっています。

将来の不安において、「自分や家族の病気、介護のこと」に関する回答が多くみられることから、健康維持や介護予防のための取組みの充実が必要です。

3. 健康・介護予防について

健康のために心がけていることについては、「食事に気をつける」と「休養や睡眠を十分にとる」が半数程度と多くなっています。

健康について知りたいことでは、「認知症の予防について」や「がんや生活習慣病（高血圧や糖尿病など）にならないための工夫について」が多くなっています。

要介護状態にならないためにやってほしい教室・事業では、「認知症の予防・支援に関すること」「運動・転倒予防に関すること」などが多くなっていることから、各種事業などの参加しやすい取組みや広報などが重要になってきます。

治療困難と診断された場合に希望する療養場所では、「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」が半数以上と最も多くなっていますが、「最後まで自宅で療養したい」とした方も1割弱ですがみられます。

4. 社会参加・生きがいについて

近所付き合いの程度では、前回調査と比較して「親しく付き合っている」が減少し、「あいさつをする程度の人はいる」が増加しており、近所づきあいの希薄化がみられます。

特に「80歳以上」の高齢者の「親しく付き合っている」の割合が多いことから、比較的若い世代の近所づきあいが大切になってきます。また、居住地区内のつながりに関しては、「つながりをととても感じる」が18.2%と前回調査と比較して5.9ポイント減少しているものの、高齢になるほどその割合は多くなっていることから、こちらも比較的若い世代につながりを感じてもらえるような環境づくりが必要です。

通いの場への定期的な参加状況では、「参加していない」が6割以上と最も多くなっており、「男性」と比較して「女性」の方が「参加している」割合が多くなっています。

体操教室や地域交流サロン活動への参加意向では、「参加してもしなくても、どちらでもよい」が最も多く、次いで「参加したくない」の順となっており前回調査と比較して8ポイント増加しています。参加したくない理由としては「人との交流が苦手だから」「健康状態が良くないから」「参加する時間がない・合わないから」などの回答が多くなっています。

ボランティア活動への参加状況では、「参加したものはなし」が53.7%と最も多く前回調査と比較して13.6ポイント増加しています。参加したことがない理由としては、「健康・体力に自信がないから」が「特に理由はない」の次に多くなっています。

地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な町の取組では、「ボランティア活動などに関する情報をもっと提供する」が34.8%と最も多くなっていることから、情報提供の充実が必要です。

今後やってみたいことでは、「健康づくりや運動など体を動かす活動」や「趣味の活動」などが多くなっていることから、気軽に「運動や趣味の活動」ができる環境の整備が望まれます。

5. 就労について

就労状況では、前回調査と比較して「収入を得ている」が2.3ポイント増加し27.4%となっています。性別では「男性」の方が「収入を得ている」割合が多く、年齢別では年齢が低くなるほど「就労している」割合が多くなっています。

働いている理由としては、「生活費や将来への蓄えのため」が半数以上を占めています。一方、働いていない理由としては、「働かなくても生活できるから」が3割程度と最も多くなっていますが、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」も1割強みられ、性別では「男性」、年齢別では「65～79歳」の比較的若い世代に多くみられます。働きたいと考える高齢者が、これまでの経験や能力を生かし働ける環境の整備が必要です。

60歳以上の方の雇用の場を確保するために町が行っている「高齢者能力活用事業」の認知度は、「知っているが、登録したことはない」が73.8%で最も多くなっていますが、「知っている、実際に登録・作業に従事している(していた)」は5.8%と非常に少なくなっています。登録の有無に関係なく「知っている」とした回答は「女性」より「男性」の方が多く、「知らない」とした回答は「65～69歳」の比較的若い世代に多くなっていることから、女性や比較的若い世代を中心に事業に関する広報が必要です。

6. 認知症について

認知症についての不安や心配事では、「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑をかけないか心配である」が58.7%、「将来、自分や家族が認知症にならないか、漠然とした不安を感じる」47.5%と認知性に関する不安が多く、全体的に「女性」と比較して「男性」に認知症に関する不安が多くなっている現状がみられます。

認知症と診断された場合に受きたい支援では、「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」が69.0%、「認知症の専門医を紹介してほしい」が50.6%と多くなっており、認知症に対応するための情報提供が望まれていることから、福祉サービスや適切な医療に関する情報提供が必要です。

7. 成年後見制度の利用促進について

成年後見制度に関しては、「言葉だけは知っている」が37.2%と最も多く、「よく知っている」は6.5%と非常に少なくなっており、成年後見制度の利用促進を行う場合、最も効果的だと思う取組みでも、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」が29.7%と多くなっていることから、今後更なる広報・啓発を図っていく必要があります。

8. 安全・安心な暮らしについて

災害時の一人での避難に関して、「避難の必要性を判断し避難できる」が63.1%と多くなっています。一方、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」17.5%、「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」5.4%と、ともに前回調査より増加しています。「避難できない方」は「女性」に多く、年齢が高くなるほど多くなるとした結果になりました。

このような現状から、避難場所を含めた災害に対する情報の更なる提供を行い、災害に対する理解を深めていただくことが急務であると考えられます。

また、災害時に助けを頼める相手及び緊急時に助けを求める相手としては、ともに「同居の家族」が最も多く、次いで「別居の家族、親族」とした結果になりました。

9. 介護について

要介護度の認定状況は、「要介護度の認定を受けていない」が8割以上で最も多く、次いで「要支援認定を受けている」、「要介護認定を受けている」の順となりました。

介護を受ける場合に受けたい介護では、「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」が4割程度で最も多くなっており、自宅で介護を受けたいと思う理由としては、「家族と一緒に過ごしたいから」が最も多く、次いで「住み慣れた家を離れたくないから」の順となっています。

高齢者を介護する家族に必要な支援では「介護の相談窓口」が47.3%で最も多くなっているものの、前回調査と比較して4.8ポイント減少していることから、相談しやすい窓口の充実が必要です。

10. コロナ禍における暮らしについて

コロナ禍の生活で悪化した部分としては、「足腰の筋力・歩く速度の低下」、「意欲、やる気の低下」「睡眠時間の減少や睡眠の質の低下」などが多くなっています。

不安解消のために大切だと思うことでは、「感染症予防・対策の周知、啓発」等の意見が多くなっていることから、感染症予防の周知や啓発を推進するとともに、感染予防を行った上での「運動教室」などの取組みが重要です。

10. 高齢社会対策への総合的な取組み等について

高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策として、最も重要度が高い取組みは、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」次いで、「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」、「いつまでも在宅生活を続けられるような多様な介護サービスの整備」の順となっており、満足度が高い取組みとしては「趣味・生きがい活動など様々な社会活動への参加を促進するための取組」、「役場・公民館などの公共施設等（道路を含む）におけるバリアフリー化の取組」、「健康づくり、介護予防や認知症予防のための取組」の順となっています。

また、重要度は高いものの満足度が低い施策としては「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」「高齢者向け住宅や施設の整備」「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」などがあがっていることから、今後、町として重点的に取り組まなければいけない施策だと考えられます。